

## 和仏法律学校講義録

著者	副島 義一，竹井 耕一郎，秋山 雅之介，松井 茂， 小河 滋二郎
出版者	和佛法律學校
巻	3-16
ページ	1-53
発行年	1900-09-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5199">http://hdl.handle.net/10114/5199</a>

# 和佛法律學校

## 講義錄

第 參 部

第 拾 六 號

憲

法 (自二五〇) 法學士 副島 義一

行

政 法 (自二五三) 法學士 竹井 耕一郎

國際公法 (戰時) (自二五九) 法學士 秋山 雅之介

警

察 法 (自二八九) 法學士 松井 茂

監獄學提要 (自二四九) 小河 滋二郎

090  
1900  
3-1-16

ク合期ヲ新ニセサルヘカラス隨テ通常ノ停會ノ場合ニハ再ヒ前會ノ議事ヲ繼  
續スルコトヲ得ルモ解散ノトキノ停會ハ合期カ更新セラルルヲ以テ前會ノ議  
事ヲ繼續スルコトヲ得ス故ニ通常ノ停會ト衆議院ノ解散ノトキノ貴族院ノ停  
會ハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ此場合ノ貴族院ノ停會ハ閉會ト其效力ヲ  
同シウスルモノナリ  
帝國議會ノ閉會ハ勅令ニ依リテ之ヲ行フ此停會ハ議會ノ一切ノ作用ヲ閉止ス  
ルモノニシテ閉會後ハ有效ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス即チ閉會ハ合期ヲ終了ス  
ルモノナリ閉會ハ停會ト異ニシテ議事ヲ次會ニ繼續スルコトナシ故ニ議案又  
ハ請願等ノ未タ議決ニ至ラナリシモノハ總テ後ノ會ニ繼續スルコトナク全ク  
消滅スルモノナリ次ノ會ニ於テ再ヒ之ヲ議スルニハ更ニ相當ノ手續ヲ要ス又  
已ニ閉會アレハ委員會モ亦其議事ヲ繼續スルコトヲ得ス但シ政府ノ要求又ハ  
其同意ヲ得タルトキハ議會閉會ノトキニ於テモ仍ホ委員ヲシテ議案ノ審査ヲ  
繼續セシムルコトヲ得此閉會ハ何時之ヲ命スヘキカハ議會ノ規則ニ依リテ  
通常會ノ合期ハ三箇月ナルコトハ憲法ノ規定スル所ナリ故ニ天皇ハ通常會ノ

場合ニハ此三箇月ノ期間ノ満了前ニ閉會ヲ命スルコトヲ得ス此規定ハ閉會ノ命令ヲ下ス時期ニ制限ヲ加ヘタルモノナリ然レトモ天皇ハ會期ヲ延長スルコトヲ得而シテ會期ノ延長ハ明示ヲ以テスルコト通常ナレトモ默示ヲ以テスルモ何等ノ妨ナシ故ニ若シ三箇月ノ會期盡タルモ仍ホ閉會ノ命令アルニアラナレハ默示ヲ以テ會期ヲ延長シタルモノト解釋セタルヘカラス隨テ閉會ノ命令アルマテハ議會ハ其作用ヲ繼續スルコトヲ得之ニ反シテ天皇ハ臨時會及ヒ衆議院解散後ノ議會ニ於テハ任意ニ其會期ヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ一タヒ定メタル會期ノ未タ盡キタルモ仍ホ閉會ノ命令ヲ下スコトヲ得是レ會テ廣島議會ニ於テ實際ニ生シタルコトナリ斯ル事ハ決シテ違法ニアラス苟モ會期ヲ自由ニ定ムルコトヲ得ハ一タヒ定メタルコトヲ伸縮スルモ亦任意ナリト謂ハサルヘカラス故ニ此場合ニハ豫メ定メタル會期ノ満了前ニ於テモ亦満了後ニ於テモ閉會ヲ命スルコトヲ得満了後數日ニテ閉會アレハ會期ヲ延長セラレタルモノトセサルヘカラス故ニ議會ハ總テ閉會ノ命令アルマテハ其作用ヲ有效ニ爲スコトヲ得ト謂ハサルヲ得ス

衆議院議員全體ハ其任期満了前ニ同時ニ其資格ヲ消滅セシメラルルコトアリ之ヲ名ケテ解散ト曰フ解散ハ勅命ヲ以テ衆議院ニ對シテノミ行フモノナリ解散アレハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメテ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ帝國議會ヲ召集セサルヘカラス解散ノ效力ハ衆議院議員ノ任ヲ解タニ在リ即チ議員ノ資格ヲ其任期ニ先チ剝奪スルモノナリ議會ハ開會中ニ於テ衆議院解散セラレタルトキハ同時ニ作用ヲ閉止スヘキ效力ヲ生ス何トナレハ解散ノ時ヨリ一モ有效ノ議員存在セサルヲ以テナリ解散ハ議會開會中ニ於テモ仍ホ之ヲ行フコトヲ得ルヤ多少ノ疑アリ或ハ曰ク衆議員ヲ解散スト云ヘハ既ニ衆議院ノ存在ヲ前提トシタルモノナラサルヘカラス而シテ衆議院ノ存在ハ少クトモ召集ヲ受ケテ議院ノ成立シタル後ナラサルヘカラス議會閉會中ハ衆議院ハ存在スト謂フコトヲ得ス開會中ハ箇箇ノ議員ハ在ルモ各議員ハ存在スルコトナシ存在セサル議院ハ之ヲ解散スルコトヲ得ス憲法ニモ衆議院議員ノ解散トナシシテ衆議院ノ解散トアリ故ニ召集成立シタル後ニ於テ衆議院ノ解散ヲ命スルコトヲ得ルノミニシテ閉會中ニハ解散ヲ行フコトヲ得スト然レトモ此說ハ解



散ノ意味ヲ誤解シ解散ヲ以テ集合體ヲ解キ散ラスト云フ意味ニ解シタルモノナリ然レトモ解散ノ意味ハ必スシモ此ノ如キモノニアラス又憲法ニ衆議院議員ノ解散トナクシテ衆議院ノ解散トアルモ之カ爲メニ閉會中ハ解散スルコトヲ得スト謂フコトヲ得ス若シ此ノ如ク言フトキハ帝國議會ヲ召集スルト謂ス如キコトモ言ヒ得サルヘシ何トナレハ論者ノ言ニ從ヘハ召集ナクハ未ダ帝國議會ハ存在セサルヲ以テナリ予ノ考フル所ニ據レハ議會閉會中ニ於テモ仍ホ衆議院ヲ解散スルコトヲ得ト信ス何トナレハ解散トハ議員ノ資格ヲ其任期ニ先テ消滅セシムルモノニシテ閉會中ニ於テモ仍ホ之ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テナリ或ハ憲法第四十四條第二項ニ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ停會ストノ規定アルカ故ニ閉會中ノモニ解散ヲ行フヘキモノナリト云フ若アルモ是レ唯開會中ニ解散シタルトキニ貴族院ヲ停會スト云フ規定ニ過キスシテ之カ爲メニ閉會中ニ解散スルコトヲ得ストノ論決ヲ生セス且ツ衆議院ヲ解散ハ唯リ政府ト議員トノ意見ノ衝突シタルトキノミニ行フモノニ限ラス議員ノ任期ト通常ノ選舉期ト相合セスシテ選舉期日經過後ニ任期ヲ滿了ス

ル場合ニハ其議員ノ任期ニ先テ其資格ヲ剝奪セテ通常ノ選舉期日ニ新議員ヲ選舉セシムル必要ヲ生ズルコトアリ或ハ又新ニ選舉ヲ行ヒタルトキハ總テ一度ハ必ス召集セサルヘカラスト云フ者アリ固ヨリ衆議院解散セラレテ新ニ總選舉ヲ爲シタルトキハ未タ一回モ召集セサル前ニ解散ヲ行フコトヲ得ス何トナレハ解散セラレタルトキハ新ニ議員ヲ選舉シテ五箇月以内ニ召集スヘシト云フ規定アルカ故ニ若シ召集セサル前ニ解散スレハ此規定ニ反スルニ至レハナリ之ニ反シテ通常ノ選舉ヲ行ヒタル後ハ一度モ召集セスシテ之ヲ解散スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス然レトモ之カ爲メニ通常會ヲ一度モ召集セサル結果ニ至ラシムルコトヲ得ス

#### 第四節 帝國議會ノ議事ニ關スル重ナル原則

#### 第五節 議會ト政府員トノ關係及ヒ各院相互間ノ關係

右二節ノ説明ハ之ヲ略ス

## 第六節 帝國議會ノ組織

大凡議院ニ一院制ト兩院制トアリ兩院制ハ凡ニ英國ニ於テ發達シ歐洲諸國ハ之ヲ模範トシテ採用セタルモノナリ現今歐洲ニ於テハ一二ノ小國ヲ除クノ外ハ皆兩院制度ヲ採ル我帝國議會モ亦兩院制度ヲ採リテ貴族院及ヒ衆議院ノ兩院ヨリ成ル此兩院ハ互ニ獨立シテ議事ヲ開キ議決ヲ爲シ又議事規則ヲ定メ其他建議上奏等各獨立セテ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ兩院ハ同時ニ召集開會停會及ヒ閉會セラルモノナリ又衆議院解散ノ場合ニハ貴族院ハ停會セラルガ故ニ此兩院ハ其會期ヲ異ニシテ作用スルコトヲ得ス兩院制度ノ原則トシテ議會ノ權限ノ重ナル協贊及ヒ承諾ニハ必ス兩院ノ同意ヲ必要トス若シ一院ノ否決アレハ議會ノ議決タル效力ナシ又兩院共ニ同一ノ議案提出權ヲ有ス政府ガ議案ヲ提出スルニモ兩議院ノ中孰レヲ先キニスルモ全ク其自由ナリ唯豫算案ハ先ツ衆議院ニ之ヲ提出セサルヘカラス貴族院ハ衆議院ノ議決ノ後ニアラサレハ之ヲ議スルコトヲ得ス外國ノ憲法ニ依レハ貴族院ハ衆議院ノ送付セタ

ル豫算案ヲ可決スルカ又ハ否決スルカ就レカ其一方ヲ選マサルヘカラス之ヲ修正スルコトヲ得ストスル國多シト雖モ我法律ニ於テハ斯ル規定ナキカ故ニ衆議院ノ送付シタル豫算案ヲ修正スルコトヲ得唯衆議院ノ先議決ノ效力ニ付テ少シク疑アリ明治二十五年ノ議會ニ於テ衆議院ガ删除シタルモノヲ貴族院ニ於テ復活シタルコトアリ之ニ因リテ爭ト爲リ終ニ勅裁ヲ仰キテ復活ヲ許スコトヲ爲レリ此ノ如キ實例ハ外國ニ於テモ亦之アリ千八百十二年十月ノ普魯西ノ貴族院ニ於テ衆議院送付ノ豫算案ヲ否決セテ更ニ政府提出案ヲ可決シタルコトアリ之ニ因リテ大ニ爭ト爲レリ當時學者ノ解釋ニ曰ク貴族院ノ行爲ハ全ク違法ナリ豫算議決ニ付テハ貴族院ハ修正權ヲ有セス唯衆議院ノ修正權ヲ有スルモノナリ政府ノ提出案ハ衆議院ノ議決ニ由リテ全ク異ナリタル豫算案ト爲レルモノナリ貴族院ニ於テハ此衆議院送付ノ豫算案ヲ議決ト爲テ之ヲヘカラス原トノ政府案ヲ議決ト爲スコトヲ得ス貴族院ハ通常ノ法律案ニ付テハ修正權ニ依リテ原トノ議案ノ條項ヲ復活スルコトヲ得ルモ豫算案ニ付テハ政府案ヲ復活スルコトヲ得ス何トナレハ貴族院ハ豫算ニ付テハ修正スルコト

ヲ得ナレハナリ貴族院ハ同一ノ年度ニ於テハ二箇ノ豫算案ヲ有スルモノニア  
ラズ唯衆議院送付ノ一箇ノ豫算案ニ付テ可否ノ議決ヲ爲スコトヲ得ルノミナ  
リ政府案ヲ復活スル如キハ違法ノ行爲ナリト云フニ在リキ我憲法議院法ノ規  
定ニ依レハ此等ノ憲法ト異ニシテ貴族院ハ豫算ニ付テモ仍ホ修正權ヲ有ス故  
ニ修正權ナキカ故ニ政府案ヲ復活スルコトヲ得ストノ議論ハ成立セス然レト  
モ豫算ニ付テ修正權ハ如何ナル範圍ヨリ成立スルモノナリヤ第一同ノ議會  
ニ於テハ豫算ノ款項ヲ新ニ設ケタル異例アルモ其後ニ於テハ款項ヲ新ニ設ケ  
ルコト殆ト慣例ト爲レルカ如シ是レ蓋シ豫算ニ付テハ議案提出權ヲ有セサル  
カ故ナリトノ理由ニ基ケルモノナリ若シ豫算ニ付テハ款項ヲ新ニ設ケタルコ  
トヲ得ストノ説ヲ採レハ貴族院亦衆議院送付ノ議案ニ付テ款項ヲ新ニ設ケルコ  
トヲ得ス例ヘハ衆議院ニ於テ政府案ニ掲ケル或款項ヲ刪除セテ貴族院ニ送付  
シタルトキハ貴族院ニ於テハ之ヲ政府案ニ復活セシムルコトヲ得ス何トナレ  
ハ貴族院ニ於テハ衆議院ノ送付シタル議案ニ付テ議決セサルヲ得ナレハナ  
リ

## 第七節 議員ノ特權

第一 意見發表ニ付テノ無責任 憲法第五十二條ニ兩議院ノ議員ハ議院ニ於  
テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシトアリ本條ニ於テ  
疑ノ起ルハ意見ナル文字ノ範圍是ナリ  
或一説ニ依レハ議員ノ議院内ニ於ケル意思發表ハ唯議院内ニ於テ其責任ヲ問  
ハルルノミニシテ其他ニ刑法上ノ訴追ヲ受クルモノニアラス蓋シ本條ハ各議  
員ヲシテ獨立シテ自由ニ言論ヲ爲スコトヲ得セシムルカ爲メニ設ケタル唯一  
ノ保障ノ規定ナリ故ニ意見トハ議員カ其職務ヲ行フニ際シテ發表シタルコト  
ハ總テ之ヲ含ムモノナリト云ヘリ  
他ノ一説ニハ本條ハ議員カ議院内ニ於テ刑法上ノ誹毀ニ涉ル言語ヲ發シタル  
トキニ刑事上ノ訴追ヲ禁ズルモノニアラス唯誹毀ノ性質ヲ有セタルモノニ限  
リ謂フ受クルモノニアラストノ規定ナリ蓋シ此規定ハ刑法ノ例外法ニ屬スル  
モノナレハ之ヲ嚴正ニ解セサルヘカラス意見トハ唯思考力ノ結果ヲ指シテ云

「ヘルモノナリ故ニ事實ノ主張又ハ事實ノ報告トハ之ヲ區別セサルヘカラス固ヨリ意見モ事實ノ前提ニ基クモノナレトモ然レトモ意見ト事實トハ性質上異ナル所アリ憲法ニ所謂意見トハ唯事實ノ主張又ハ報告ヲ含ムモノニアラス意見ハ判斷ニシテ事實ニアラス殊ニ特定ノ事實ヲ含マサル一般ノ判斷ナリ此一般ノ判斷ハ或ハ刑法上ノ罵詈訕弄ト爲ルモノニシテ其ハ憲法ノ規定ニ依リテ所謂原因ト爲ルコトナシ之ニ反シテ特定ノ事實ヲ發表スレハ是レ即チ誹謗毀謗ニシテ無責任ノ限ニ在ラスト云ヘリ

然レトモ判斷ト事實トハ之ヲ絕對ニ區別スルコトヲ得ス判斷ハ事實ト關係シテシテ之ヲ爲スコトヲ得ス或判斷ヲ爲スニハ事實ヲ以テ之ヲ確メサルヘカラス何事モ見聞シタルコトニ付テ判斷ヲ下スモノナリ單純ナル事實ヲ陳述スルニモ尙ホ判斷ハ伴フコトアリ例ヘハ甲者カ乙者ノ或一定ノ場所ニ在留シタルニトテ主張スル場合ニハ甲ハ其乙ノ形ヲ見又ハ乙ノ音聲ヲ聞キテ其見聞ノ感覺ト其乙ナルコトノ前想ト一致スル結果ヲ主張スルモノニシテ其感覺ニ依リテ乙ナルコトヲ確定スルハ即チ判斷ノ作用ナリ且ツ總テ判斷ハ荷モ未來ノコ

フルカ故ニ邊ニ觀念ノ衝突ヲ來シ其結果已ムヲ得ス國家ト公共トノ目的ヲ區別シ國家ノ目的以外ニ公共ノ目的アルカ如ク考ヘ加之公共ノ目的ヲ以テ國家ノ目的ヨリモ重キモノノ如クニ思考シ隨テ或學者ノ如ク公共行政即チ內務行政ヲ以テ行政ノ主要ナルモノトシ其間ニ輕重ヲ立タルニ至レルモノナリ元來歐洲諸國ニ於テ國家ト稱スルハ國民團體ニ外ナラス即チ一定ノ土地ノ上ニ秩序の生存ヲ爲ス人民ノ集合體カ國家タルナリ而シテ國家ノ意思ト稱スルハ此人民ノ集合の意思ナリトス蓋シ實際上ハ各人民ノ意思ハ一致スルコト殆ト稀ナリ然レトモ法理上ハ意思ノ一致ヲ認ムルモノトス即チ適法ニ發表サレタル意思表示ハ國民ノ合一意思ナリトスルヲ彼ノ團體ニ合スルモノトス今日獨逸等ノ學者カ排斥スル歴史派即チナビニト氏等ノ說ニシテ法ハ國民ノ意思ナリト論スルヲ彼ノ團體ニ於テ最モ的中シタル觀念タルヘキナリ以上述フル所ニシテ當レリトセハ歐洲ノ團體ニ於テハ觀念上國家ト國民團體トハ別異ノモノニアラス國民團體ヲ抽象的ニ考ヘタルモノ即チ國家ナリ隨テ國家ト公共トヲ區別スルモ畢竟徒勞ニ歸スルノミナラス立法論トシテハ益不可ナルヲ認ムヘ

キナリ  
上來述アル所ニ依リ歐洲ノ法理トシテモ今日行政法ノ議論ニ完全ナラサル所アルヲ知ルヘシ我國ノ學者一般ニ唯外國ニ行ハルハ觀念ヲ採リ來リテ説明ヲ試ミルニ過キサルナリ然レトモ國家ト公共トノ區別論ハ歐洲ニ於ケルヨリハ我國ニ於テハ一層一理アルカ如ク見ユ何トナレハ我國體トシテハ統治ノ主體ハ天皇ニシテ國民ニアラス故ニ統治ノ主體即チ國家ナリトセハ天皇ハ國家ナリト云ヒ得ヘシ即チ國家ト公共トハ區別シ得ヘタ隨テ學者ノ區別論モ我國ニ於テハ尙ホ行ハルヘキニ似タリ然レトモ法ノ精神ヲ論スルトキハ此論ハ未タ一概ニ承認セ能ハス何トナレハ天皇ハ國民ニアラスト雖モ其利害休戚ハ相一致シテ離ルヘカラサルモノナリ我國建國以來列聖ノ遺訓功業全ク愛ニ在リ民富メハ朕富ミ民貧ナレハ朕貧ナリトハ單ニ道德的ノ格言ナルノミナラス以テ立法ノ精神ト爲スヘキモノタリ法ト道德トハ素ト相背反スルモノニアラスセテ法ハ道德ヲ根據トシテ立ツルモノタルコトハ近世學者ノ總テ認ムル所ノモノタリ左レハ我國ニ於テモ國家ノ目的ト公共ノ目的トハ區別スヘキモノニアラス是レ

一國生存ノ要件タルナリ故ニ予輩ハ政務ノ根本的區別トシテ二ツノ目的ニ由リテ分類スルハ完全ナル方法ト云フ能ハスト論スルナリ或ハ言ハン二者ハ素ヨリ相一致スヘキモノタリ然レトモ實際ニ一方カ直接ノ目的ニシテ一方ハ間接ノ目的タルコトハアリ得ヘキモノニシテ此點ニ由リ區別スルモ決シテ不道理ニアラスト然リ實際箇ノ場合ニ於テ此ノ如キ形跡存スルコトアルハ予モ之ヲ知レリ然レトモ國家政務ノ大本ヲ論スルニ當リ其目的ニ二アリトセテ行政ノ組織ヲ分ツハ決シテ穩當ナリト謂フヘカラス假ニ是ニ由リテ能ク明カニ區別ヲ爲シ盡スヲ得ルトセハ尙ホ可ナリト雖モ此區別ハ實ニ曖昧ニシテ箇ノ場合ニ當リタモ惑ヲ起スコト決シテ少カラス現ニ警察ノ如キ普通ノ論者ハ公共行政即チ内務行政ノ一部トシテ公共ノ目的ノ爲メニスルモノニシテ直接ニ國家ノ目的ノ爲メニスルモノニアラスト論スレトモ警察ノ本義ハ果シテ此ノ如キモノナリヤハ予ノ疑フ所タリ何故ニ國家ノ危害ヲ除キ安寧ヲ維持スル働カ警察ニアラスシテ公共ノ爲メニスルヲ目的トスル働ノミカ警察ナリヤ其理論上區別ノアル所ヲ知ルニ苦ムナリ我國ノ實際ヲ見ルモ警察ノ働ハ單ニ論

者ノ言フカ如キモノニ限ラス是等ノ詳細ハ内務行政ノ下ニ説カントス蓋シ予ハ本年講義ノ「システム」ヲ普通ノ學說ニ依ラシメタルカ故ニ已ムヲ得ス此ノ如キ説明ノ方法ヲ爲スナリ而シテ應説ニシテ普通ノ論ト異ナル點ハ處處ニ之ヲ附記シ諸君ノ參照ニ便スルノミ

以上述ヘ來リシ所ニ據レハ目的ヲ二分シ依リテ以テ行政ノ二大別ヲ試ムルハ不可ナリ今本論ニ歸リテ徵收權ノコトヲ述フレハ此事ニ付テモ同シテ公用徵收又ハ土地公用徵收トシテ内務ノ範圍ノミニ限リテ之ヲ説クハ適當ナラス須ク根本ニ立戻リテ國家ノ徵收權ヲ廣ク論スヘキナリ而シテ軍事ニ關スル徵收モ亦其一種トシテ説クヘキモノトス斯クセンニハ行政法學ノ講義ノ「システム」ヲ根本的ニ變更セザルヘカラス或ハ言ハシムル國家ノ徵收權ヲ此ノ如ク廣ク説クトキハ租稅モ手數料モ或ハ官吏ノ勞力徵收モ兵役モ亦其内ニ包含シ錯綜紛亂ヲ極メ殆ト學問上ノ「システム」ヲ缺クニ至ルヘシ是レ豈ニ學者ノ議論ナランヤト然レトモ此論ハ未タ予ノ意ヲ解スルモノニアラス予ノ所謂徵收トハ此ノ如キ廣キ意義ニアラス畢竟徵收トハ國家ノ目的ノ爲メニ特定ノ資產上ノ權利若ク

ハ金錢ニ換算スルヲ得ヘキ特種ノ勞力ヲ徵收シ之ニ對シ臣民ノ負擔ヲ平均スルカ爲メニ賠償ヲ爲ス國權ノ働ヲ謂フナリ租稅ハ一般ニ屬課シ絕對的ニ普通人ノ資產ヲ強制徵收シ以テ財政上ノ收入ヲ圖ルモノニシテ此ニ所謂徵收ニアラス又次ニ手數料ハ僑人ノ爲メニスル國家ノ行為又ハ營造物ノ使用ニ對シ報償トシテ徵收スルモノニシテ其性質ハ亦此ニ所謂徵收ト異ナル次ニ官吏ノ勞力兵役ノ如キハ金錢ニ換算スルコトヲ得ルモノニアラス又之ニ對シテ賠償ヲ爲スヘキモノニアラス官吏ノ俸給兵士ノ手當ノ如キハ賠償ニアラスシテ其生活ヲ支フルカ爲メニスル給與ナリ此ノ如ク前論者ノ舉タル所ハ總テ予ノ徵收ト稱スルモノニアラサルナリ是等ノ點ヨリシテ國家徵收權ノ大體ヲ知ルヘク且ツ其一タル軍事ノ徵發ノ性質ヲモ知リ得ヘシト考フ

警察ノ性質ニ關シテ一言セリ即チ概括的ニ論スルハ警察ヲ以テ論者ノ所謂内務ノ行政ノ一部ニ限ルヘカラト云ヘリ現行法ヲ閱スルニ例ヘハ憲兵條例第一條ニ曰ク「憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察司法警察ヲ掌ル云云」此條文ノ示ス如ク所謂行政警察ノ外ニ軍事警察及

司法警察等ノアルコト明カナリ元來警察ハ國家公共ノ安寧秩序ヲ維持スルカ爲メ人ノ自由ヲ制限スルノ働ナリ故ニ本章軍務行政ノ範圍ニ於テモ警察ノ働ナキニアラス例ヘハ戒嚴令ニ於テ戰時ニ臨ミ警察權執行權ヲ司令官ニ委付タルカ如シ其第十四條ヲ見ルニ第一、集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト第二、軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト第三、銃砲彈藥兵器火器其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アルトキハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スルコト第四、郵便電報ヲ開封シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海軍通路ヲ停止スルコト第五、戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壊燒燬スルコト第六、合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り検査スルコト第七、合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコトヲ規定セシメ又要塞地帶法ヲ閱スルニ其第二章ニ禁止及ヒ制限ト題スル規定ヲ設ケ第七條ヨリ第十六條ニ及ヒテ或ハ一定ノ地域內ニ戒嚴ノ人ノ立入ルコトヲ禁止或ハ一定ノ地域內ニ戒行爲ヲ禁止或ハ一定ノ地域內ニ戒建設

物ヲ禁スルカ如キ種種ノ制限ノ規定ヲ設ケタリ此ノ如キハ皆其性質警察ノ働ニシテ軍事ノ行政ニ關係スルモノトス普通ノ論者ハ是等ヲ以テ軍務行政ノ範圍外ナリト論ス例ヘハ戒嚴令ニ依ル警察ノ規定ノ如キハ内務行政ノ一部トシテ之ヲ説明スルナリ然レトモ論者ノ所謂内務行政トハ單ニ公共ノ目的ヲ達スル働ニ止マリ國權維持ノ働ヲ含マサルカ故ニ戒嚴令ニ依ル警察上ノ規定ハ其内ニ説明スルコト寧ロ不當ナリト言フコトヲ得ヘシ

軍務行政ノ範圍ニ於テハ説明スヘキモノ尠カラズ然レトモ其詳細ハ之ヲ説明スルノ餘地ナシ唯最後ニ戒嚴令ニ關シテ一言スヘシ戒嚴トハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルヲ謂フ憲法第十四條ニ曰ク「天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス」ト同レタ第三十一條ニ戰時若クハ事變ニ際シテハ法律ニ依ラスシテ大權ノ作用ヲ以テ臣民ノ自由權ヲ制限スルコトヲ妨ケサルノ趣意ヲ規定ス尙ホ第十四條第二項ニ「戒嚴ノ要件及ヒ效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ戒嚴ノ宣告ハ大權ノ働ニ依リ而シテ其要件及ヒ效力ハ何故ニ法律ヲ要スルカ是レ蓋シ戒嚴ノ影響カ單ニ行政上ニ止マラスシテ司法權ニモ及フモノナル

ヲ以テナルヘキカ  
戒嚴ヲ分チテ二種トス。臨戰地境及ヒ合圍地境ノ二ツノ場合はナリ。臨戰地境トハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區劃スルヲ謂ヒ合圍地境トハ敵人合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區劃スルモノヲ謂フ。臨戰地境ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委テ合圍地境ニ於テハ戒嚴ノ宣告ニ依リ地方行政事務及ヒ司法事務ハ一切其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スルモノトス。此點カ兩者區別ノ存スル所ナリ。

### 第三章 財務行政

財務行政ハ國家統治ノ目的ヲ達スルカ爲メニスル貨財ノ收入及ヒ支出ニ關スル行政ナリ。或學者ハ曰ク國家カ財務ヲ行フニ當リテハ財產權ノ主體トシテ一私人ト對等ノ地位ニ立ツ場合ニシテ私法上ノ關係ナリ。此場合ニハ國家ハ即チ國庫ト稱スル一私法人タルモノナリト云フ。此說ニ承認スルコト備ハス說ニ述ヘタ

ル如ク國家ハ統治ノ目的ヲ達スルカ爲メニスル必スシモ常ニ權力命令ノ効ノミヲ爲スモノニアラス。故ニ公法ノ實質ハ權力ノ關係ノミニアラサルナリ。財政ヲ行フニ於テ一箇人ニ對シ或ハ權力ヲ用フルコトアルヘシ例ヘハ收入ヲ得ルカ爲メニ強制シテ租稅ヲ徵收スルカ如キ是ナリ。又或ハ權力ヲ用ヒサルコトモアルヘシ例ヘハ合意ニ基キテ收入ヲ得ル場合即チ官業ニ因ル收入ノ如キ是ナリ。此ノ如ク國家カ其目的ヲ達セントスルニ當リ取ルヘキ手段ハ必スシモ一ナラズ。然ルニ強テ之ヲ權力ノ場合ノミニ歸スルハ不可ナリトス。勿論公法關係ハ私法關係ト異ナリ。治者ト被治者ノ關係ニシテ其基礎ハ平等對等ノモノニアラス。然レトモ國家カ此公法上ノ目的ヲ達スル手段トシテハ常ニ權力服従ノ行爲ノミナリトスルハ蓋シ狹キニ失スルノ觀念ナリト思考ス。前論者ハ曰ク國家カ財政ヲ行フトキハ私法人ノ資格ニ變シ之ヲ稱シテ國庫ト云フト予ハ前述セル理由ニ依リ國家ニ二ツノ資格ヲ認メス。財政ヲ行フ場合モ他ノ公法關係ト同シク公法上ノ歸ナリトシテ同シク統治ノ主體タル公法人ノ行爲トスルモノナリ。國庫ノ會計ハ素ヨリ統一セサルヘカラス。然レトモ財政上ノ便宜ノ爲メニ法律



ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ許セリ普通會計ニ關スル法規ノ主ナルモノハ會計法ナリ之ニ依レハ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル此間ニ於ケル租税其他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トス此歳出入ハ總テ豫算ニ編入シテ議會ノ協賛ヲ求ムヘキモノトス豫算調製ノ手續ヲ概言スレハ歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ製シ大蔵大臣ニ送付シ各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ製シテ大蔵大臣ニ送付ス是等ハ皆經常臨時ヲ區別シ更ニ款項目ヲ分ツヘキモノトス大蔵大臣ハ各廳ノ歳入歳出概算書ヲ檢シ歳出入概算書ヲ製シ開議ニ提出ス内閣ニ於テ之ヲ決定シタル後各省大臣ハ各省所管經費毎項ノ概算額以內ニ於テ節約ヲ旨トシテ各省豫定經費要求書ヲ製シ大蔵大臣ニ送付ス大蔵大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總テ豫算ヲ調製スルナリ

總豫算ハ之ヲ經常及ヒ臨時ノ二部ニ大別シ各部之ヲ款項ニ區別スヘシ豫算中ニハ豫備費ヲ設クヘキモノトス豫備費ヲ分テテ第一第二ノ二種トス第一ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補ヒ第二ノモノハ豫算外ノ必要費ニ充ツルモノトス

豫算ニ關シテハ種種ノ問題アリ先ツ豫算ハ法律ナルヤ否ヤ此點ニ關シテ詳論スルハ事ロ憲法學ノ範圍ニシテ行政法ノ範圍ニ非サルカ如ク然レトモ既ニ憲法ニ規定スル如ク國家ノ歳入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキモノニシテ歳出入ノ準據スル所ハ豫算ニ在リトス故ニ其性質ヲ一言スルハ蓋シ失當ニアラサルヘシ或ハ曰ク豫算ハ會計法ニ依リテ效力アリ憲法上ハ唯一片ノ見積表タルニ過キスト此論ハ豫算ノ效力ハ會計法ヲ待テテ始メテ定マルモノトスルナリ然レトモ憲法ニ於テ既ニ豫算ノ規定ヲ設タル以上ハ豫算ノ憲法上ノ效力ヲ定メサルヘカラス憲法ハ會計法ヲ待テテ始メテ行ルヘキ性質ノモノニアラス會計法ナシト雖モ憲法上豫算ノ效力ヲ論セサルヘカラス會計法ハ憲法ト同時ニ發布セラレシ事實ハ理論上會計法ハ憲法ノ一部タリ又ハ附屬法タリト云フノ結論ヲ生セス若シ然ラハ論者ノ所說ハ豫算ハ法律ナリトノ論結ヲ避ケント欲シテ却テ轉倒ニ陥リタルモノニシテ豫算ノ性質ヲ適當ニ解釋セルモノト云フコト能ハス次ニ或論者ハ曰ク豫算ハ法律ナリト此論者ノ云フ所ヲ聞クニ憲法上法律ニ形式的ノ意義ヲ與ヘタル以上ハ豫算ハ法律ナリトシテモ毫モ

差支ナシ何トナレハ實質ノ如何ヲ問ハス單ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タル國家ノ命令ヲ稱シテ法律ト名クレハナリトスルニ在リ然レドモ此觀念ハ決シテ豫當ナラス若シ豫算ヲ法律ナリトセハ之ヲ以テ他ノ法律ヲ變更スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス豫算ハ毎年のノ性質ヲ有スルモノナリ然ルニ之ヲ以テ寧ロ永久的ノ性質ヲ有スル法律ヲ改廢スルヲ得トスルハ決シテ憲法ノ精神ニテラサルヘシ且ツ憲法ノ規定ヲ見ルニ豫算ト法律トヲ區別スルノ主意ヲ窺フコトヲ得ヘキモノ尠カラス例ヘハ第六十二條ニ新ニ租稅ヲ課シ及ヒ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及ヒ其他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラスト規定セリ若シ豫算ヲ法律ナリトセハ此ノ如キ規定ハ全ク必要ナシ何トナレハ租稅其他ノ收入ハ畢竟歲入トシテ豫算ニ編製セラルヘキモノニシテ更ニ特別ニ法律ノ發布ヲ要セスシテ可ナルヘキ道理ナリ然ルニ本條ニ於テ特ニ租稅ハ法律ニ依ルヘク手数料等ハ然ラスト規定セルハ明カニ豫算ト法律トヲ區別セル趣意ナルヲ知ルヘシ其外種種ノ點ニ於テ二者ヲ混合スルノ不都合ヲ見ルト雖モ今此ニ詳説スルハ適當ニアラサルカ故ニ大要ヲ擧ゲ

餘ハ之ヲ省畧スヘシ以上述ケル如ク豫算ハ法律ニアラス然ラハ國法上如何ナル性質ヲ有スルモノナリヤ或ハ曰ク豫算ハ議會カ國家ノ歲出入ニ協賛スル手段ナリ議會ハ歲出入ニ對シテ協賛スルモノニシテ豫算ハ唯之カ爲メノ道具タルノミ隨テ法律ニアラス命令ニアラスト此議論ハ甚タ穩當ナルカ如シ予モ亦姑ク之ニ依ラント欲ス憲法第六十四條ニ曰ク國家ノ歲出入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシト以テ其精神ヲ見ルヘキナリ次ノ問題ハ豫算ハ裁可ヲ要スル否ヤト云フニ在リ豫算ハ法律ナリトセハ裁可ヲ要スルコト論ヲ待タス然レトモ前述ノ如ク豫算ハ法律ニアラストスルカ故ニ疑問ヲ生スルナリ或ハ現行ノ實例ニ照シ裁可ヲ必要ナリト論ス其理由トスル所ヲ聞クニ曰ク議會ノ本分ハ天皇ニ對スル協賛機關ナリ故ニ議會ノ勸ハ天皇ニ對スル内部ノ關係ニ止マルモノニシテ其決議カ直ニ行政機關ヲ拘束スト論スルハ寧ロ穩當ニアラス兎ニ角ク天皇ノ裁可ヲ經由セサルヘガラサルモノナリト此論一理アリ然レトモ憲法ノ明文ヲ案スルニ天皇ノ裁可ハ法律ニ關シ

ヲハ規定ヲ設ケタレトモ豫算ニ關シテハ此ノ如キコトナシ若シ二者ノ權衡ヲ得セシメシニハ同様ノ規定ヲ設ケルヲ至當トス又次ニ憲法第六十七條ヲ見ルニ或種ノ歳出ハ政府ノ同意ナクシテ廢除削減スルコトヲ得スト規定ス之ニ依レハ政府ノ同意アレハ廢除削減スルコトヲ得ル趣意ニシテ即チ廢除削減ノ權ヲ議會ニ與ヘタル精神ナルカ如シ故ニ予ハ理論上豫算ハ必スシモ裁可ヲ要セサルモノト考フ

憲法ニ曰ク國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシト故ニ歳出入ハ總テ豫算ニ編入セラレ議會ノ協賛ヲ經テ後行政官廳ハ之ニ依リテ收支ヲ爲スヘキモノトス故ニ豫算ニ載セラレサルモノハ事實之ヲ收入シ又ハ支出スルコト能ハス故ニ例ヘハ豫算不成立ノ場合ノ如キ憲法ノ規定ニ依リ前年度ノ豫算ヲ施行スヘキモノナルカ故ニ法令ニ依リ始メテ此年度ノ豫算ニ編入セラレシモノハ實行スルコト能ハサルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ此點ニ關シテハ根本的ニ論スレハ疑問ノ存スル所タリ何トナレハ若シ前述セルカ如クンハ豫算ハ法ノ效力ヲ停止スル力ヲ有スルコト爲ルヘケレハナリ今是等ニ付テ論

スルトキハ議論繁雜ニ渉ルヘケレハ姑ク省略ス蓋シ豫算ハ此ノ如ク財政ノ行爲ヲ拘束スト雖モ元來歳出入ノ手段トシテ編製セラレタルモノニシテ直接ニ政務ノ施行ヲ命スルモノニアラサルカ故ニ行政機關カ政務ヲ行フニ於テ必スシモ常ニ豫算ヲ其儘行フヘキニアラス勿論法令ニ依リ定マレルモノハ之ヲ動スコト能ハサルハ明カナリト雖モ例ヘハ豫算ニ規定セル支出ニシテ若シ其必要全ク止ミタルトキハ強テ之ヲ支出スルノ要ナシ且ツ收支ノ額ハ納稅額ノ増減物價ノ高低等ノ爲メニ常ニ變化スルヲ免レサルヘク豫算額通リニ收支ノ行ルルハ蓋シ稀ナリト謂ハサルヘカラス但シ收入ト支出トノ間ニハ稍ヤ其趣ヲ異ニスルコトナキニアラス何トナレハ收入額ノ増減ハ全ク一定ノ程度ナレト雖モ支出ニ至リテハ豫算上ノ定額ヲ超ユルコトヲ許サス唯定額内ニ於テ加減スルコトアルノミ

尙ホ毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ豫算ニ附シテ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキモノトス大藏省證券トハ年度内ニ於テ收支平行シ難キカ爲メニ一時ノ使用トシテ之ヲ廢スルモノナリ以上ハ豫算ノ大體ナリ

豫算ニ準據セテ收支ヲ爲スニ當リ先ツ收入ニ關シテ會計法ニ依レハ租稅及  
其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘク法令ニ依リ當該官廳ノ資  
格アル者ニアラサレハ徵收收納ヲ爲スコトヲ得ス次ニ支出ニ關シテハ同  
法ニ曰ク毎會計年度ニ於ケル經費ニ充ツル定額ハ其年度ノ歳入ヲ以テスヘク  
各年度ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス但シ第七章  
ニ於ケル歲計剩餘定額繰越等ノ場合ハ特別ナリ又國務大臣ハ豫算ニ定メタル  
目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス支出ノ手  
續ハ國務大臣ハ其所管定額ヲ使用スルカ爲メニハ國庫ニ向テ支拂命令ヲ發セ  
サルヘカラス而シテ國庫ハ其命令カ法律命令ニ反スルヤ否ヤヲ審査シ違反ナ  
キ場合ニ於テ始メテ支拂ヲ爲ス會計ハ素ヨリ統一ヲ主旨トスルカ故ニ各官廳  
ハ法令ヲ以テ規定セルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス又各大臣ハ其  
所管ニ屬スル收入ハ之ヲ國庫ニ納メサルヘカラス  
會計事務ノ終局ハ決算ナリ歳入歳出總テ決算ハ各省大臣カ其所管ニ屬スル經  
費決算書ヲ送付スルニ基キ大藏大臣之ヲ關製シ會計検査院ノ審査ヲ經テ議會

ニ提出スルモノトス  
以上ハ會計ノ大體ナリ特別會計及ヒ物品會計ニ關シテハ之ヲ述フルコト能  
ハス特別會計トハ作業及ヒ鐵道會計資金會計及ヒ學校圖書館ノ會計ノ如キヲ  
謂フ作業會計ハ造幣局印刷局製鐵所電信燈臺用品製造所廣島鎮山專賣局等ノ作  
業所ノ會計ニシテ資金會計トハ造船材料資金貨幣整理資金等ニ付テ特別ノ會  
計ヲ立ツルモノヲ謂フ次ニ物品會計トハ器具器械備品消耗品動物其他一切ノ動  
産ニ關スル會計ヲ謂フ以上ノ外臺灣總督府ノ會計モ亦特別會計ニ屬ス是等ノ  
モノハ一詳述シ難シ然ラ推シテ考フヘキモノトス元來一般會計ト種類會計ト  
ノ二種ヲ分ツハ便宜上或ハ沿革上ノ理由ニ因リ來ルモノニシテ會計ハ原則ト  
シテ何處迄モ合一ヲ主義トスヘキヤ明カナリ故ニ單ニ一時ノ便宜等ノ爲メニ  
多數ノ特別會計ヲ設クルハ却テ弊害ヲ招キ易キモノトス論スルマデモナク會  
計ヲシテ數種ニ分岐セシムルトキハ政務ノ亂雜ヲ來シ集收スヘカラサルニ至  
ルノ恐ナキニアラス此點ハ大ニ注意スヘキモノトス會計ニ關シテ規定アリ是レ亦詳述  
尙ホ會計法ニ政府ノ工事及ヒ物件ノ賣買貸借ニ關シテ規定アリ是レ亦詳述

スト雖モ畢竟是等ノ場合ハ原則トシテハ公告シテ競争ニ付スヘク唯特別ノ場合ニ隨意ノ約定ヲ爲スコトヲ得ルモノトモテス終リニ會計法ニ於テ出納官更ニ關スル規定ヲ設ケ其責任ノ程度身元保證金ニ關スル條規アリ

以上述ヘ來リシハ會計法ニ依ル大體ノ觀察ナリ以下收入支出ニ關シ少シク詳細ニ論セント欲ス先ツ收入ノ主タルモノトシテ租稅ヲ述ヘントス

租稅トハ一般ニ賦課シ絶對的ニ人ノ資産ヲ強制徵收シテ財政上ノ收入ト爲スモノ是ナリ先ツ租稅ハ一定ノ率ニ從ヒ一般平均ニ賦課スルヲ原則トス若シ或原則ニ從ハサレハ徵收ト云フヘキモ此ニ云フ租稅ニアラス次ニ租稅ハ絶對無條件ノ性質ヲ有ス絶對無條件ナルカ故ニ手数料ノ如ク或行爲ニ對シテ徵收スルモノニアラス賦課金ノ如ク事業ノ費用ヲ關係者ニ分賦スルモノニモアラス又公用徵收ノ如ク賠償ヲ與フヘキモノニモアラサルナリ次ニ租稅ハ人ノ資産ヲ強制徵收スルモノタリ往時ニ在リテ國家ノ經費ハ甚タ簡易ニシテ時ニ國民ノ任意貢獻ニ依ルヲ以テ足レリトセシ時代ニ於ケル貨物ト性質ヲ同シウセス次ニ租稅ハ財政上ノ收入ヲ目的トスルモノナリ憲法第六十二條ニ曰ク新ニ租稅ヲ

課シ及ヒ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト故ニ法律ハ稅率課稅物件及ヒ納稅主體ヲ規定シ行政官ハ唯之ニ依リテ徵收ヲ爲スニ止マル租稅徵收ノ勸ハ所謂依法處分タリ

租稅ノ重ナルモノヲ舉クレハ第一ニ地租ナリ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス但シ明治三十二年分ヨリ同シク三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴ス所謂地價トハ土地臺帳ニ掲ケタル價格ヲ謂フ納稅者ハ土地臺帳ノ記名者及ヒ買取主是ナリ

第二所得稅ハ納稅者ノ收入ニ對シテ課スルモノナリ法律ノ施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ納稅ノ義務アリ此外法律施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有スルトキハ其所得ニ付テノミ納稅ノ義務ヲ負フ所得稅ハ主トシテ累進稅率ヲ用フ例ヘハ第三種即チ法人ノ所得及ヒ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子以外ノ收入ハ三百圓以上千分ノ十二始マリ十萬圓以上千分ノ五十五ニ至ルマテ稅率ヲ累進ス第一種即チ法人ノ所得ハ損益計算書ニ依リ政府之ヲ決定シ第三種ノモノハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決

第三營業稅ハ法律ニ掲タル營業ニ付キ賣上金額資本金額請負金額報償金額建  
物賃賃價格從業者等ヲ課稅ノ標準トシ一定ノ稅率ニ依リテ課スルモノナリ例  
ヘハ物品販賣業ニ於テハ賣上金額建物賃賃價格從業者ヲ標準トシ請負業ニ於  
テハ請負金額及從業者ヲ標準トスルカ如シ畢竟課稅物件ハ營業ナル行爲ニシ  
テ納稅者ハ營業者ナリ而シテ稅率ヲ定ムルニ種類ノ標準ニ依ルモノトス  
第四登錄稅ハ法律ニ掲タル事件又ハ行爲ニ對シテ之ヲ官ノ帳簿ニ登錄スルニ  
當リ徵收スルモノナリ例ヘハ不動産ニ關スル登記船舶船籍ニ關スル登記商事  
會社其他營利ノ目的トスル法人ニ關スル登記著作權ノ登錄其他醫師藥劑師等  
ノ登錄ノ如シ物件ノ代價數量事件ノ件數等ニ依リ稅率ヲ定メ登錄ヲ請フ者  
ヨリ徵收ス  
第五酒造稅ハ酒類製造ノ行爲ニ對シテ課スルモノナリ酒類ヲ二種ニ分テ造石  
炭ニ比例シテ稅額ヲ定ム納稅義務者ハ製造人ナリ自家用酒稅ハ量ニ之ヲ磨キ  
ラレタリ混成酒稅ハ同シタ混成酒製造ノ行爲ニ對シテ課スルモノトス

第六醫油稅ハ醫油製造ノ行爲ニ對シテ課スルモノニシテ石高ニ依リテ稅率ヲ  
定メ製造人ヨリ之ヲ徵收ス自家用醫油稅ニ關シテハ別段ノ規定ヲ設ク  
第七印紙稅ハ財產權ノ創設移轉變更若クハ消滅ヲ證明スヘキ證書帳簿及ヒ財  
產權ニ關スル追認若クハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ヨリ徵收ス金高  
又ハ事柄ノ種類ニ依リ稅率ヲ定ム  
第八賣藥印紙稅ハ賣藥販賣ノ行爲ニ對シテ課スルモノニシテ義務者ハ其營業  
人ナリ而シテ稅額ハ賣藥ノ價格ニ依リ等級アリ  
第九北海道水產稅ハ水產物ノ採取又ハ製作ノ行爲ニ對シテ課シ其稅額ハ各水  
產物營業人組合毎ニ總額ヲ定メ各營業人ノ負擔ハ組合會ノ議決ニ依リ定ム納  
稅義務者ハ水產物營業人ナリ  
第十沖繩縣酒類出港稅ハ酒類ヲ縣外ニ輸出スル行爲ニ對シテ課シ稅率ハ石高  
ニ依リ定ム荷主ヲ義務者トス  
第十一噸稅ハ外國貿易ノ爲メ外國ニ往來スル船舶カ入港セルトキニ登錄噸數  
又ハ積量ニ從ヒテ課セラルルモノトス

第十二、海關稅ハ輸出入ノ行爲ニ對シテ課スルモノニシテ其稅率ハ種類ニ依リ物品ノ數量代價ニ從ヒテ之ヲ定ム  
以上租稅ノ重ナルモノヲ舉ケタリ固ヨリ大略ニ過サルモノトス  
租稅徵收ノ方法ハ國稅徵收法ニ依ル此ニ説述スルハ專ラ國稅ニ關スルモノニシテ地方稅ニ關シテハ爰ニ述フルノ限ニ在ラス國稅徵收法ハ關稅其他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ之ニ依ルヘキモノタリ國稅徵收法ニ依レハ國稅ノ種類ニ依リ市町村ヲシテ徵收ノ責任ヲ負ハセムル場合アリ例ヘハ地租所得稅營業稅ノ如キ是ナリ法ニ依レハ市町村ハ其市町村内ノ地租及ヒ勸令ヲ以テ命ジタル國稅ヲ徵收シ其稅金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス而シテ地租徵收ノ費用ハ其市町村ノ負擔トシ其他ノ國稅ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシト規定ス若シ市町村カ避クヘカラサル災害ニ罹リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其實事ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付責任ノ免除ヲ請フコトヲ得之ニ對シテ大藏大臣ハ事實ヲ調査シ其免除ヲ爲スコトヲ得納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其間稅金ノ徵收ヲ爲

ササルコトアルヘシ  
租稅ノ徵收ハ滯納處分ヲ以テ強行ス其手續ハ先ツ督促ヲ爲シ尙ホ義務ヲ完了セサル者ニ對シテハ財産差押ヲ爲ス但シ差押ヲ爲スコトヲ得サル物品ハ法ニ規定セラル例ヘハ日常生活ニ必要ナル物又ハ特ニ其者ニ取リ重要ナル物ノ如キ是ナリトス若シ差押ヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及ヒ國稅ニ對シテ優先ノ權ヲ有セ從テ先ツ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ムルモノトス納稅ノ義務不履行ニ伴ヒテ罰則ノ規定アレトモ今之ヲ述ヘス間接國稅ニ關シテハ特ニ間接國稅規則者處分法ノ規定アリ以上ハ收入ノ第一タル租稅ニ關シテ説述セリ次ニ收入ノ第二トシテ手数料ヲ述ヘント欲ス廣義ニ所謂手数料トハ一人ノ爲メニスル國家ノ行爲又ハ營造物ノ使用ニ對シテ其報償トシテ徵收スルモノナリ手数料ト租稅トノ區別ニ關シテハ議論ノ存スル所タリ或ハ曰ク手数料ハ租稅ト同シ性質ヲ有ス唯異ナル所ハ手数料ハ一人ノ利益ヲ條件トスルノ點ニ存ス箇人ニ利益ヲ與ヘ此條件ニ依リ國家カ權力ヲ以テ徵收スルモノニシテ箇人ノ利益ト手数料ノ額トハ其間

ニ比例ヲ有スルモノニアラス唯前者カ後者ノ動機ト爲ルノミト此論ハ憲法ノ規定ニ依ラサルノ論ナリ憲法ニ曰ク報償ニ屬スル行政上ノ手數料云云ト此主意ヨリ考フルトキハ手數料ノ要件ノ一ハ報償ニ在ルコト明カナリ左レハ商人ノ利益ト手數料トノ間ニハ自ラ密接ノ關係ヲ有シ後者ハ前者ニ對スル報償ノ性質タルヘキナリ今其租稅ト異ナル要點ヲ舉クレハ第一其設定及ヒ變更ノ手續ヲ異ニス憲法第六十二條ニ依レハ租稅ハ總テ法律ニ依ルヘク而シテ手數料及ヒ其他ノ收納金ハ法律ヲ以ラスルノ限ニ在ラストス第二ノ區別ハ前述セル如ク一ハ報償ノ性質ヲ有シ一ハ然ラサルニ存ス租稅ノ性質ハ絕對無條件ナルヘキコトハ前已ニ論シタリ

廣義ノ手數料ハ之ヲ分チテ使用料及ヒ狹義ノ手數料ノ二ト爲スコトヲ得使用料トハ營造物ノ使用ニ對シテ徵收スルモノナリ學者ハ之ヲ分チテ公法上ノ使用料及ヒ私法上ノ使用料トシ道路ノ如キ小學校ノ如キモノノ使用料ハ契約ニ基クモノニアラサルカ故ニ公法上ノ使用料ニシテ郵便ノ如キ鐵道ノ如キモノノ使用料ハ私法上ノ性質ナリト論セリ予ハ是等ノ形式ニ依リテ區別ヲ爲ス必要

モノニテ停泊ト爲スコトヲ得ス此等人員ノ其船舶ヲ去ルトキハ私有所ノ什物及ヒ治療ノ器物ヲ携帯シテ退去ヲ許スカ故ニ船舶ノ捕獲セララルトキト雖モ船中ニ於テ其職務ヲ繼續シ其任務ヲ終ルトキハ退去シ得ヘキモノトス而シテ此等船舶ニ對シテハ交戰國軍艦ハ何時ニテモ臨檢スルノ權利ヲ有スレトモ捕獲スルコト能ハス其船中ノ搭載品モ禁制品ニ非サル物ハ中立タリ

政府ノ船舶ト否トヲ問ハス以上述ヘタル中立ノ利益ヲ受クヘキ者ハ其國旗ト共ニ赤十字旗ヲ掲ケ船員ハ赤十字ノ臂章ヲ著セサルヘカラスシテ其任務ハ負傷者難船者及ヒ病者ノ國籍如何ヲ問ハス救助スルノ義務ヲ有シ其船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコトヲ必要トス而シテ斯ル船舶ノ各任務ニ從事スルニ當リテハ決シテ戰闘者ノ進退ヲ妨礙スヘカラス又交戰國ハ右船舶ニ對シテ監督及ヒ臨檢ノ權利ヲ有シ戰争ノ狀況ニ由リ軍事上ニ害アリト認ムルトキハ其助力ヲ受クルコトヲ拒絕シ其進行ヲ禁止シ其離隔ヲ命令シ其航行スヘキ方向ヲ嚴命シ且ツ其船中ニ監督員ヲ搭載セシメ若シ重大ナル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ拘留スルコトヲ得ヘキモノトス



## 第六章 海上ニ於ケル敵國財產ニ對スル權利

### 第一節 海上捕獲

#### 第一款 敵國ノ官船

敵國ノ官船ハ中立國ノ領海以外ノ海上ニ於テ攻襲又ハ捕獲シ得ヘシ茲ニ官船ト謂フハ必スシモ軍艦等ノ如ク戰闘ノ用ニ供スルモノニ限ラスシテ運送船其他ノ船舶ヲ包含スルノミナラス縱令人民ノ所有ニ係ル物ト雖モ敵國官吏ノ指揮ノ下ニ在リテ政府ノ使用ト爲レル物ハ私人ノ艦艇ニ係ル物モ亦官船ニ屬ス又政府ノ備入レタル船舶ハ其借入中全ク政府ノ使用ノ下ニ在リテ海軍士官其他政府ノ監督ニ屬スル物ハ其貸借期間中ハ之ヲ官船ト看做スヘキモノトス然レトモ近世ノ慣例トシテ土地商業又ハ學術上ノ探險船ハ官船ト私船トヲ問ハス敵國政府ヨリ無事ニ其目的ノ爲メ航海ヲ爲スノ免狀ヲ受ケ得ヘク苟モ戰爭行爲ニ干與セサル間ハ交戰國ノ保護ヲ受クルヲ常トシ千七百七十六年米國獨立戰爭ニ於テ英國探險船「ジョーシ」號ノ船長「タック」氏ニ對シテ佛國政

府ハ其殖民地ニ關シ之ヲ中立トシ友誼國ノ船舶ニ對スル待遇ヲ爲サシメ此實例ハ其後文明國一般ニ襲奪スル所ト爲レリ隨テ諸國ハ斯ル探險船ヲ出ストキハ其航海ノ性質並ニ乘組員等ヲ列國ニ公然通知スヘキモノトス但シ斯ル船舶ト雖モ其目的以外ノコトニ從事スルトキハ特權ヲ失フハ勿論戰爭ノ必要ニ由リテハ敵國ニ拘留セララルコトナキニ非ス例ヘハ千八百三年英國探險船「ジブランド」號ハ佛國海軍省ノ免狀ヲ受ケ得タルニ拘ラス遠洲探險ヲ畢ヘテ歸航ノ際「ルイ」港ニ寄港シタルニ戰爭中ニ關係ヲ有スル嫌疑アリタルカ爲メ佛國政府ノ拘留ト爲リタルカ如ク要スルニ探險船ハ交戰國ニ於テ互ニ攻撃又ハ捕獲セシメテ其目的ニ從事セシムヘキモノニシテ戰爭ノ必要ニ由リテハ拘留セラレ得ヘキニ過キス

又千八百四十三年及ヒ千八百五十六年英佛條約ニ依リ戰爭中郵便船ヲ互ニ捕獲セサルノ規定ヲ爲シ諸盟國一方ノ意思ニ依リテ此規定ノ實行ヲ廢スルノ通知ヲ爲ス迄ハ自由航海ヲ爲サシムヘキコトトシ近年郵便船ニ對シテハ之ニ特權ヲ與フルノ傾向アレトモ條約ニ依ルニ非サレハ未タ以テ國家ノ義務トスル

ニ足ラス然レトモ俘虜交換船ハ其職務ヲ行フノ必要上中立ノ待遇ヲ受クヘク  
斯ル船舶ハ普通其交換事務所ヨリシテ免狀ヲ受ケ其船舶ノ性質ヲ證明シ在ル  
モノナレトモ縱令其免狀ヲ有セサル船舶ト雖モ其職務ノ明白ナルトキハ捕獲  
ヲ免レ俘虜ヲ搭載セサルトキト雖モ中立ノ待遇ヲ受クヘキモノナリ但シ斯ル  
船舶ニシテ商船又ハ軍隊間ノ通信物ヲ搭載スルカ若クハ敵國ニ對シ敵意ノ行  
爲アルトキハ其特權ヲ失フモノトス其外燈臺用ノ船舶ハ一般航海ノ安全ヲ保  
證スルモノナルヲ以テ近世ノ慣例上之ニ妨害ヲ加フルコト能ハス  
學術慈善教法ノ爲メ航行スル船舶病者負傷者ヲ輸送シ又ハ救護スル船舶及ヒ  
燈臺用船ハ總テ捕獲ヲ免ルルモノトス其外海上ノ難破ヲ避ケ若クハ糧食缺乏  
ニ由リ又ハ戰爭ノ事實ヲ知ラスシテ敵國港灣ニ入りタルモノニ於テハ時トシ  
テハ寛大ノ待遇ヲ受ケタルコトアリ千七百四十六年英國軍艦ユリサベス號ノ  
難破ヲ避ケバハナ港ニ入り降服セントシタルニ西班牙國ハ之ヲ修復セシメ「  
ルミューダス」迄保護ノ免狀ヲ與ヘテ立去ラシメ千七百八十年英國船舶ノ西班牙  
領「ホンダラス」港ニ戰爭ヲ知ラスシテ入港セタルニ之ニ糧食ヲ與ヘテ「ジャマ

イカ港迄立去ラシメ千七百九十九年普國船舶「チヤナ號」風浪ノ爲メ「ダンカイ  
」港ニ入りタルニ佛國政府ハ之ヲ本國ニ送還シ又其後英國砲艦一艘「ロソ河  
」口ニ難破ヲ避ケタルニ佛國ハ之ヲ無事ニ立去ラシメタリ然ルニ千八百十年佛國  
政府ハ法令ヲ以テ敵國ノ難破船ヲ立退カシメサルコトト爲シタルニ由リ同年英  
國船舶「「チヤナ號」ト同一ノ事情ニテ佛國ノ一港ニ入りタルモノヲ沈没セリ斯  
ク風浪難破ヲ避ケタル爲メ官船若クハ私船ノ敵國港灣ニ入ルニ付テハ之ヲ沒收  
セ得ヘキヤ否ヤニ付キ實例及ヒ學說共ニ一定セスシテ正義人情ノ點ヨリシテ  
其不幸ニ乘シテ利ヲ貪ルノ不正ヲ説ク者アレトモ其當否ハ始テ措キ英國ハ古  
來敵國軍艦ノ難破ヲ避ケタル爲メ入港シタルモノヲ沒收シ又理論上ヨリ觀ルモ  
總テ敵國官船中ニ於テモ軍艦等ノ場合ニ於テ無條件ニテ退去セシメ之カ爲メ  
自國ニ取リ恐ルヘキ攻撃ノ材料ヲ敵國ニ返スハ寛大モ其度ヲ失スルモノナル  
カ故ニ之ヲ退去セシムルヲ以テ未タ交戰國ノ義務ト爲スコト能ハサルモノトス

## 第二款 敵國ノ私有船舶

敵國人民ノ船舶及ヒ其私有ノ搭載品ハ近世ノ戰爭ニ於テ交戰國ノ互ニ捕獲セ  
 ナリシ實例ナキニ非ス又學說ニ於テモ其捕獲ヲ熱心ニ非難セサル者殆ト無キ  
 所ニシテ米國ハ千七百八十五年普國トノ條約ヲ以テ捕獲ヲ爲ササルノ規定ヲ  
 設ケタリシニ其後ノ條約ニテハ同一ノ規定ヲ削除シ千八百二十三年大統領モ  
 ンローハ英佛露三國ニ照會シテ戰爭中總テ敵國ノ商船及ヒ商品ヲ列國條約ニ  
 テ捕獲スルコトヲ廢セント企テタリ然ルニ英佛兩國ハ之ヲ贊同セス露國ノミ  
 米國ノ意見ニ賛成シタレトモ諸國一般ニ之ヲ承認スル迄ハ其實行ヲ拒ミ千八  
 百五十六年巴里宣言ニテ歐洲列國ハ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルコトヲ禁スルコ  
 トト爲シタレトモ敵國ノ私有船舶及ヒ私有ノ搭載品ヲ拿捕スルコトヲ禁セテ  
 ナシニ由リ米國ハ之ニ加盟セザリハ前述ノ如シ要スルニ米國ノ意見ニハ既  
 ニ露獨等諸國ノ贊成アルニ拘ラス主トシテ英國ノ反對ニ由リ未タ其實行ヲ見  
 ルニ至ラサルモノトス然ルニ諸國ノ實際ニ付キ觀ルトキハ千八百六十五年伊國ハ海上法第二百十一  
 條ニ於テ交戰國ノ相互主義ニ出ツルニ非サレハ敵國ノ商船ヲ拿捕スヘカラス

ト規定シ千八百六十六年伊普兩國ノ換國ニ對スル戰爭ニ於テ交戰國互ニ宣言  
 ヲ以テ敵國ニ於テ自國船舶及ヒ積荷ヲ捕獲スルニ非サレハ自國モ亦敵國ノ商  
 船及ヒ積荷ヲ捕獲スヘカラスト爲シ又米國ハ千八百七十一年伊國トノ條約ヲ  
 以テ兩國ハ戰爭ニ於テ封港ヲ破リ又ハ戰時禁制品ヲ除クノ外ハ私有船舶其他  
 財產ヲ拿捕セサルコトヲ規定シ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ普國ハ初メ法令  
 ヲ以テ相互主義ニ依ラス單獨ニ佛國私有船舶ヲ拿捕セサルコトヲ爲シタリシ  
 カ佛國ニ於テ依然普國ノ商船ヲ拿捕シタルニ由リ千八百七十一年一月普國政  
 府モ法令ヲ改正シテ佛國私有財產ヲ拿捕スルコトヲ爲セリ以上ハ戰爭中敵國私有財產ヲ捕獲セサルコトト爲シタル實例ニシテ千八百六十  
 六年普佛伊三國ノ戰爭ノ如キハ其拿捕ヲ行フコトナク戰爭ヲ爲シタルモノト  
 ス然レトモ現今ニ至ル迄私有財產ノ捕獲ヲ禁セントスルノ國家ハ米國ヲ併セ  
 テ四大國ニ過キス就中伊國ヲ除キ他ノ三國ハ海軍ノ微弱ナリシカ爲メ自國ノ  
 政略上此主義ヲ主張スルモノノ如シ又學說ニ於テ私有財產ヲ捕獲スヘカラスト爲ス者ノ理由トスル所ヲ見ル

(第一) 戰爭ハ國家ト國家トノ爭ニテ私人間ノ事ニ非ストシ海上捕獲ハ國際公法上私人ノ財産ハ戰爭中侵スヘカラサルノ原則ニ適合セス(第二) 陸上ニ於テ私有財産ハ安全ナルニ拘ラス海上ニ於ケル私有財産ノ掠奪ハ野蠻の行爲ナリ(第三) 海上捕獲ハ商人ニ對スル損害ニシテ其害毒ハ商人ニ直接ナルニ由リ陸戰ノ徵發課金ノ如キ地方一般ノ損害ヨリモ一層大ナルモノトス隨テ陸上ニ於テ掠奪ヲ禁シタルト同一理由ヲ以テ海上捕獲ヲ禁セサルヘカラス(第四) 既ニ私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルコトヲ列國ノ廢止シタル今日ニ於テハ一步ヲ進メテ私有財産ヲ全ク拿捕セサルコトト爲スハ僅少ノ勞ニ過キスシテ社會道德ニ益スルコト極メテ大ナル結果ヲ來スヘシト云フニ在リ而シテ之ニ反對スル者ハ(第一) 戰爭ハ單ニ國家間ノ爭ニシテ其國ノ私人ハ敵人タル關係ナシトスルハ國際公法ノ論理ニ背キ又事實ニ反ス(第二) 陸戰ニ於テモ敵國私有財産ニ對シ徵發課金等ヲ行ヒ得ルト同シテ海上捕獲ハ猶ホ陸上ニ徵發課金等ニ異ナルコトナシ又古來戰爭ノ權利トシテ私有財産ヲ攻擊破損シ得ヘキモノタリシニ拘ラス之ヲ捕獲シテ軍費ヲ補充スルハ既ニ寛大ノ行爲タリ(第三) 海上捕獲ハ商人ニ直接ニ慘

毒ヲ與フルコト疑ナシ然レトモ徵發課金モ亦貧弱國ニ於テハ其地ノ食物ヲ取リ盡シ商品等ヲ收用シ盡シテ其慘毒ハ均シク多數人民ニ對スル商人的ナルモノナルコトアリ(第四) 列國ノ私有財産ヲ拿捕スルヲ禁スルハ僅少ノ勞ト假定スルモ既ニ巴里宣言ニ依リ中立國ノ船舶内ニ在ル敵國財産ハ拿捕ヲ免ルルヲ以テ敵國人民ハ捕獲ヲ免ルル爲メ其物品ヲ中立國國旗ノ保護ノ下ニ置クノ費用ト努力ヲ之ニ取ルハ是レ亦容易ナリト云フニ在リ加之ダナ民ノ論スル所ニ依レハ徵發課金ヲ賦課スルハ嚴正ナル強制的ニシテ人民ノ自由活動ヲ案ルモノナレトモ之ニ反シテ海上捕獲ハ生命ニ危害ヲ與フルモノニ非ス人民ノ家屋ヲ侵シ其生活ヲ案ルモノニ非スシテ單ニ利益ヲ目的トシ戰爭ノ法則上捕獲ハ危險ヲ任意ニ冒シテ航海ヲ爲ス財産ヲ捕獲スルニ過キス況ヤ現今ニ於テハ航海ノ危險ヲ保證スル保險契約ヲ其船舶並ニ物品ニ對シテ附著シ得ヘク又之ヲ附スルヲ普通トスルカ故ニ其損害モ必スシモ商人的ノ慘毒ニ終ルニ限ラサルモノナリト論ヒリ

此議論ノ就レテ正當トスヘキヤハ余ハ茲ニ其辯明ヲ試シテ各人ノ判定ニ一

任シ置カントス然レトモ海上ト陸上ニ於テ斯ノ敵國私有財產ニ付テ其法則ヲ異ニスル理由ヲ考フルニ他ナシ陸戰ニ於テハ主トシテ敵國ノ領土ヲ侵略シテ敵國ヲ征服セントスルニ在リト雖モ海上ニテハ敵國ノ商業航海ヲ妨害シ若クハ零落セシメ海上戰鬪力ノ材料ヲ絶タントスルニ在ルヲ以テ陸上ニ於テハ個人ノ財產ヲ不可侵トシ又之ヲ儲スル必要トセサルニ拘ラス海上ニテハ私有財產ヲ捕獲スルノ法則今猶ホ存スル所以ナルカ如シ然レトモ海上ニ於テモ私有財產ヲ捕獲スヘカラストスル學說ハ近來大ニ其勢力ヲ高メ之ヲ國際公法ノ法則ト爲サントスルハ學者一般ニ希望スル所ニシテ千八百七十五年ヘーグ府ハ國際法協會ノ決議ニ於テモ敵國國旗ノ下ニ在リテ航海スル敵國私有財產ハ千八百六十六年普奧伊三國ノ宣言ニ遵據シ侵スヘカラスルコトヲ列國一般ニ認ムルニ至リテ戰時禁制品ナルカ又ハ宣言シタル實力上ノ封港ヲ破リタル者ヲ除クノ外ハ捕獲スヘカラスト爲スコトヲ希望スト言明シ又千八百八十二年ニレン府ニ於ケル同協會ノ決議ニ於テモ海上捕獲ニ於テハ法則トシテ私有財產ハ封港ヲ破リタル場合ノ外ハ相互主義ニ基キテ侵スヘカラストノ一條ヲ設ケ

此決議ハ英國代表ノ反對說ヲ有スル學者二名ヲ加ヘ七名ノ反對ニ對スル十名ノ投票ニ依リテ解決セラレ更ニ千八百八十七年ハイデルベルヒニ於ケル國際法協會ニ於テモ同一ノ決議ヲ爲シタルヲ以テ觀ルモ此學說ノ勢力アルヲ證スニ足ルヘシトスニ至リテ其國會議員ハ其國會議員ニ由リテ英國國會議員ニ對シテ列國ノ未タ之ヲ國際公法ノ法則ト爲スニ至ラサル所以ハ主トシテ英佛兩國ノ反對ニ由ルモノニシテ「ローレンス」ノ說ヲ所ニ依レハ佛國ハ其海軍ト露國海軍トヲ加フレハ事アルノ時ニ當リ英國ノ商業ヲ攻撃スルハ其戰艦ヲ攻擊スルヨリモ寧ロ上策ト爲スニ由リ此學說ニ同意ヲ表セサルヘク英國ハ當初ヨリ海上捕獲ノ免除ニ反對シ佛國革命戰爭及ヒ「ナポレオン」戰爭中ニ於テ佛國ノ商業ヲ零落セシメタルノミナラス其私有船舶ヲ沒收シテ自國ノ商船ニ一百萬噸ヲ一時ニ増加シタル事實アルヲ以テ英國ハ戰爭ニ於テ私有財產ノ拿捕ヲ廢シテ自國商船ノ安全ヲ得ルヨリモ寧ロ優勢ナル海軍ヲ以テ敵國商業ヲ滅盡スルノ權利ヲ國際公法上保持セントスルモノナリトセリ蓋ハ戰時ハ戰時ニ從テ前進ノ如キ議論アルニ拘ラス現行ノ法則トシテハ中立國領海以外ニ在リテ敵

國ノ私有船舶若クハ敵國ノ權力ノ下ニ在ル自國又ハ中立國人民ノ船舶其他ノ財產ハ悉ク交戰國ノ捕獲シ得ヘキモノトス而シテ捕獲者ハ如何ナル時ニ於テ其拿捕物ニ對シ所有權ヲ取得スヘキヤハ一ノ問題ニシテ陸上ニ於ケル戰利品ハ之ヲ二十四時間占有スルカ若クハ自國ノ軍營ニ持込ムカ如キ安全ニ其物品ヲ占有スル時ニ於テ所有權ヲ移轉スト雖モ海上ニ於テハ一般ノ法則トシテ未タ確定シタルモノナシ然レトモ捕獲者ノ之ヲ取得スルトキハ其物品ニ對スル推測上ノ權利ヲ得其權利ハ捕獲審檢所ノ裁判ニ依リテ確定セラルルモノト看做スヲ得ヘシ

拿捕ニ係ル船舶ノ果シテ敵國ニ屬スルヤ否ヤハ船舶ニ掲タル國旗又ハ船籍證書等ニ依リテ決スヘキモノナレトモ船舶ハ時トシテ偽ノ國旗ヲ掲タルコトアリ隨テ國旗ノミニテ真正ニ其國籍ヲ知ルヘカラサルニ由リ交戰國軍艦ハ戰爭中交戰國又ハ中立國ノ私有船舶ヲ臨檢スルノ特權ヲ有ス又時トシテハ船舶ニ於テ船籍ノ登錄ヲ偽リ敵國船ニシテ他國ヨリ正式ノ船籍證書ヲ受ケ居ル場合ナキニ非ス此點ニ付キ千八百七十四年玖巴叛亂者ノ船舶バージニヤス號ハ米

國ノ登錄ヲ受ケタルモノナリシカ西班牙國軍艦ノ爲メ捕獲セラレ米西兩國ノ問題ト爲リ米國政府ハ軍艦ト商船トノ間ニ於テハ總テ船籍證書ニ依リ之ヲ拿捕スルト否ヲ決スヘク若シ其證書ノ眞僞ニ付キ故障アルトキハ外交問題ト爲スノ外ナク直チニ其船舶ヲ拿捕スル能ハスト主張シタルシカ此主張ノ正否ニ付テハ議論ノ存スル所ニシテ「ラルセル」[ダナ]等ハ直接ニ斯ル船舶ハ拿捕シ得ヘキモノトモリ又斯ル船籍ノ詐欺ヲ防ク爲メ英佛兩國ニテハ戰爭中敵國船舶ヲ中立國人ニ賣渡スヲ認メサリシカ是レ決シテ國際法ノ法則ト爲ス能ハス隨テ方今英米兩國ニ於テハ其賣買ヲ全然無效トセザレトモ斯ル賣買ハ完了シテ所有權ノ全然移轉シタルコトヲ要シ如何ナル條件ヲモ其移轉ニ付キ附著シ居ルモノナルヘカラス隨テ交戰國ハ斯ル賣買アルニ際シテハ充分ニ審理シ捕獲ヲ免ルル爲メ偽ノ賣買ナルトキハ猶ホ之ヲ敵國船ト爲シ而シテ航海中ニ在ル船舶財產ハ戰爭ニ際シテ中立國人ニ賣却スルヲ無効トシ中立國人ノ私船ニシテ敵國人ノ船長及ヒ水夫ヲ有シ又ハ專ラ敵國固有ノ商業ニ従事スルモノ若クハ敵國國旗ヲ保護ノ下ニ航海シ其通航券又ハ商業免狀ヲ以テ航海スルモノハ

敵國船ト看做セリ隨テ日清戰爭中我國捕虜規程第二條ニ於テ左ノ船舶ハ敵船トシテ拿捕スルコトヲ得ルモノト爲セリ  
一 運送船トシテ敵國政府ノ雇入レタル船舶其雇入ハ敵國政府ノ強迫ニ係ルモノトキモ亦同シ  
一 敵國ノ旗章及ヒ通航券ヲ有スル船舶  
一 敵國政府ノ免狀ニ依リ航海スル船舶  
一 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハス敵國軍艦保護ノ下ニ航海スル船舶  
一 縱令船籍證書面ハ帝國臣民若クハ同盟若クハ中立國ノ船舶ナルモ一部又ハ全部ハ敵ノ所有ニ係ル船舶  
一 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ其船舶ハ出港後ニ敵ヨリ買受ケタルモノニシテ尙ホ進行中ニ在リテ未ダ其人ノ占有ニ歸セサルモノ  
一 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ船舶ナルモ若シ其所有者開戰前豫メ開戰ヲ慮リテ該船舶ノ所有權ヲ敵ヨリ得タルモノナル

又同規程第三條ニ於テ拿捕スベカラサル敵船トシテ左ノ四種ヲ列舉セリ  
一 沿岸漁船  
一 學術慈善救法ノ爲メ航行スル船舶  
一 病者負傷者ヲ輸送スル船舶  
一 燈臺用船  
此四種ノ拿捕スベカラサル敵船中ニ付キ茲ニ說明ヲ要スルハ沿岸漁業船ニシテ漁船ヲ戰爭中捕獲セサルハ古來佛國ノ主張ニ係ルモノニテ中世ニ於テ英佛戰爭中ハ互ニ英國海峽ニ於テ漁業船ニ防害ヲ與ヘタルコトナク千五百二十一年佛埃戰爭ニ於テハ兩國ハ之ヲ捕獲セザル條約ヲ結ビ千五百四十三年乃至八十四年佛國ハ法令ヲ以テ敵國ト相互主義ニ基キ漁業船ヲ拿捕スベカラストノ規定ヲ設ケタリ然レトモ第十七世紀ノ初ニ至ルマデハ果シテ如何ナル程度ニ於テ佛國中此特權ヲ漁業船ニ與ヘタルキハ今之ヲ知ルニ由ナク千六百八十一年及上干六百九十二年佛國ハ法令ヲ以テ漁業船ヲ拿捕スベキコトト爲シ米

國獨立戰爭迄ハ英佛兩國ハ互ニ漁船ヲ捕獲シタルモノトス然ルニ同戰爭及革命戰爭中交戰國互ニ條約ヲ以テ其捕獲ヲ爲ササルコトト爲シタリシニ千八百年佛國ハ漁船ヲアラッセング港ニ於テ嚴禁シテ英國艦隊ヲ攻撃スルノ用ニ供シフレスト港ニ於テハ其水夫ヲ佛國軍艦ノ使用ニ充ツルカ爲メ漁船ヲ使用シ又漁船五百乃至六百艘ヲ以テ英國侵襲ノ船舶ト爲サントシタルニ由リ英國政府ハ之ヲ拿捕シ佛國政府ノ抗議ニ答ヘテ曰ク總テ戰爭中漁船ヲ捕獲セサルハ單ニ戰爭行爲ニ關スル權利實行ノ寬典ニ出テ人情ニ基キタルニ過キサルヲ以テ何時ニテモ相當ノ理由アルトキハ捕獲ヲ爲シ得ヘシト論シ佛國ハ其捕獲ヲ文明國ノ慣例ニ反スルコトヲ反駁セリ然レトモ「ナポレオン戰爭中ハ兩國互ニ漁船ヲ捕獲シタルコトナク米國ハ米墨戰爭中ニ於テ佛國ハ「クリミヤ戰爭」獨戰爭普佛戰爭ニ於テモ敵國ノ漁船ヲ捕獲シタルコトナシ之ヲ要スルニ戰爭中漁船ヲシテ安全ニ其業ニ從事セシムル理由ハ此等細民ハ戰爭ニ關係ナキ食糧ヲ交戰國人民ニ供給スルニ止マリ且ツ海上ノ危險ヲ冒シテ小ナル生計ヲ營ムニ拘ラス戰爭ニ由リ其職業ニ妨害ヲ與ヘ船舶器具ヲモ沒

收ナルハ甚シキ困難ヲ其細民ノ生活ニ與フヘキニ由リ人情之ヲ爲スニ忍ビタルニ出タルモノトス而シテ漁船ニ此特典ヲ與フルノ觀念ニ付キ佛國ニテハ之ヲ交戰者ノ義務トシ學者中カルボ「フタル」モ亦之ヲ國際公法ノ絕對的法則トシ英國ニ於テハ單ニ交戰國ノ好意ニ出ルモノト看做シテ絕對的ノ義務ニ非ストシ米國ニ於テモ條約上ノ義務ト爲スモノノ如シ殊ニ鯨獵船ノ如キ大洋ノ漁獵ニ從事スル船舶ハ此特權ヲ有セサルコトハ佛國學者ヲ除ク外ハ一般ニ異論ナキ所ニシテ我捕獲規程ニモ沿岸漁船ト言明シタル所以ナリ而シテ沿岸漁船ト雖モ千八百年英國ノ拿捕シタル場合ノ如ク戰爭行爲ニ關係スルトキハ固ヨリ拿捕ヲ免ルルコト能ハス

### 第三款 敵國ノ搭載品

海上捕獲ニ關シ歐洲中世ノ法則トシテ苟モ敵國ニ屬スル物品ナル以上ハ其敵國船又ハ中立國船ニ搭載スル場合ヲ區別スルコトナク悉ク交戰國ノ爲メ捕獲セラレ得ヘキモノトシ敵船ニ敵物ヲ搭載スルトキハ船舶物品共ニ捕獲沒收シ



中立國船舶ニ敵國物品ヲ搭載スルトキハ捕獲審檢所ニ於テ物品ノミヲ沒收シ之ヲ賣却シ其代價中ヨリ船舶所有者ハ其物品ノ運賃ヲ得ヘク但シ中立國船舶ニ封港ヲ破リタル如キ戰時法則ヲ犯ストキハ沒收サルヘキモノナレトモ普通ノ商業航海ニテハ敵物ヲ搭載スルトキニ限リ拘留セラルルニ過キスシテ其沒收ヲ免ルルノミナラス運賃ヲモ受ケタルモノトス是レ有名ナルコンソラトール、マール法典ノ規定ニシテ英米兩國ハ之ヲ普通法ノ一部トシ大陸諸國モ總テ此法則ニ依リタルコトナリシカ第十七世紀以來中立國船舶ニ搭載スル敵國物品ヲ沒收セサル慣例ノ漸ク生スルニ至リ遂ニ千八百五十六年巴里宣言第二條ニ於テ自由船舶自由物ノ原則ヲ規定シ敵國物品ト雖モ戰時禁制品ヲ除クノ外ハ中立國船舶ニ搭載スル場合ニ於テハ拿捕スヘカラサルコトト爲セリ而シテ米國ハ此宣言ニ加盟セサルモ第二條以下ノ規定ヲ自ラ適用セルヲ以テ南北戰爭ニ於テハ兩軍共ニ中立國船舶ニ在ル敵物ヲ拿捕セタルコトナク今日ニ於テハ諸國一般ニ之ヲ實行スルニ至レリ隨テ戰爭中戰時禁制品ヲ除クノ外海上ニ於テ敵國ノ物品ヲ拿捕セ得ヘキ場合ハ單ニ其物品ノ敵國船舶若クハ自國船舶ニ搭

載スルトキニ限ルモノトス國際公法ニ據テモ戰時ニ於テハ實質ニ敵國又近來ノ慣例中モ休キ戰爭ノ當初ニ於テ中立國又ハ敵國ヨリシテ自國ノ港灣ニ向ヒ航海中ニ在ル敵國船舶若クハ未タ出帆セザルモ開戦ノ當時自國ニ向ヒテ來ランタ爲メ積荷ヲ爲シタル敵國船舶ハ一定ノ月時間捕獲セサルノ特典ヲ與フルコトアリ(クリミヤ戰争ニ於テハ英國ハ樞密院令ヲ以テ開戦ノ當時他國ヨリ英國領内ニ向ヒテ出帆シタル露國ノ商船ハ其到達港ニ入り積荷ヲ卸シ直チニ退去セシメ英國艦隊ノ海上ニ於テ斯ル船舶ニ邂逅スルトキハ封港セザル敵國港灣ニ向ヒテ其航海ヲ繼續セシムルコトトシ佛國モ亦同戰争中同一ノ規定ヲ設ケ又千八百七十年獨逸船舶ノ開戦ノ當時佛國ニ向ヒテ積荷ヲ爲シタルモノハ佛國ノ港ニ入り本國ニ歸港ヲ許シ之ニ通航券ヲ與ヘ千八百七十七年露土戰爭ニ於テモ土耳其商船ハ露國港内ニ於テ積荷ヲ爲シタルモノヲ自由ニ退却スルコトヲ許セリ)

海上捕獲ヲ行フニ當リ敵國船舶及ヒ敵國人民ノ搭載品タルト否トヲ捕獲審檢所ニ於テ明確ニ區別スルノ必要アリ而シテ如何ナルモノヲ敵國船舶トスベキ

ヤハ既ニ述ヘタル所ナリ然レハ如何ナル搭載品ヲ敵物トスヘキヤト云フニ文明國ノ慣例ニ依リ敵國物品タルモノハ所有者ノ國籍ニ依ルモノアリ時トモテ所有者ノ居住地ニ依リ又其物品ノ差立地ニ依リ又其物品ノ保管者ニ依リテ決スヘキモノニシテ所有者ノ敵國人民ナルトキハ物品ノ敵物タルハ論ナク敵國又ハ占領地ト爲リ居ル敵國ノ一地方ノ產物ニシテ土地所有者ノ手ニ在ル間ハ縱令物品ノ所有權ヲ有スル者ハ中立國人ニシテ敵國以外ニ住居スル場合ニ於テモ之ヲ敵物ト看做スヘキモノトス何トナレハ土地ハ敵國ノ大ナル富源ナルヲ以テ其產物ニシテ土地所有者ノ手ニ在ル間ハ自ラ敵物タルノ性質ヲ有スヘキヲ以テナリ加之自國人又ハ中立國人ニシテ敵國ニ商店ヲ有スルトキハ其商店ニ直接ノ關係ヲ有スル物品ハ同シク敵物トモテ捕獲ヲ免ル能ハス又敵國ニ住所ヲ有スル者ノ財産ハ敵物ト看做サルモノニシテ中立國人ノ果シテ敵國領内ニ住所ヲ定メタルト否トハ本人ノ意思ト其他ニ居住シ來リタル年月トニ依リテ之ヲ決スヘク又商品ノ航海中ニ在ルモノハ戰爭中敵國人ノ之ヲ第三國人ニ賣買スルヲ認メス又開戦ヲ豫想シテ捕獲ヲ避ケル爲メノ賣買ヲ無効ト

シ加之平時ニ於テハ積荷ヲ海上ニ送り出ストキハ特別ナル契約ニ依リ受取人ノ手ニ到著スル迄ハ荷主ノ所有ト爲シ得ヘキモ戰時ニ於テハ斯ル特約ヲ認メシテ受取人ノ敵國人民ナルトキハ敵國財産ト看做シ海上ニ於テ捕獲スルトキハ即チ受取人ニ對シ物品引渡アルモノト看做セテ之ヲ沒收シ之ニ反シテ受取人ノ中立國人又ハ自國人ナルトキハ真正ノ所有者ハ差立人ナル敵國人ニ非ナルコトヲ明ニ證セサルヘカラスシテ其所有權ノ移轉ニ關シ條件アルモノハ之ヲ敵國財産ト看做スヘキモノトス而シテ總テ海上捕獲ニ於テ敵物ト否トヲ區別スルハ捕獲當時ニ於テスルヲ以テ拿捕ノ後所有者ノ國籍ヲ變スルモ其沒收ニ付キ何タル影響アルコトナク中立國ノ財産ト雖モ敵國武裝ノ船舶中ニ在ル物ハ中立國財産タルノ特權ヲ失ヒ敵物トシテ沒收セラレ敵國軍艦ノ保護ノ下ニ在ル船舶及ヒ搭載品モ悉ク敵物ト看做サレ亦中立ノ特權ヲ有スル能ハス」蓋ニ敵國船舶中ノ敵物ハ悉ク捕獲スヘキ法則ノ例外ト看做サレタルハ千八百一十二年英米戰爭中伊國ヨリ米國美術館ニ送りタル圖書及ヒ印刷物ヲ英國カ拿捕シタルニ法廷ハ之ヲ捕獲スヘカラストシ美術及ヒ學術ニ關スル物ハ人類一

般ノ物ニシテ之ニ戰爭行為ヲ及ヘスヘカラストノ理由ニ因リ美術館ニ區置セ  
リ此判決タル非難ヲ免レサル所ナレトモ之ヲ正當トスル學者頗ル多ク諸國捕  
獲審檢所モ之ト同一ノ所置ヲ爲スニ至ルヘク其外病院船及ヒ其器具モ亦未ダ  
免除ノ完全ナル法則ナレト雖モ之ヲ條約附屬條約及ヒ昨午平和會議ノ議決  
ニ係ルモノハ條約ヲ海戰ニ應用スル條約ニ規定スル所ニ由リ今後ノ海上戰爭  
ニ於テハ其捕獲ヲ免ルヘキカ知シ

## 第二節 賠償證書及ヒ再捕獲

交戰國ノ私有船舶カ敵國ノ軍艦ノ爲メニ拿捕サレタル場合ニ於テ船長ハ拿捕  
者ニ一定ノ金錢ヲ支拂ヒ其捕獲ヲ免除セララルコトアリ斯ク金錢ヲ出シ若ク  
ハ一定ノ金錢ヲ出スノ約定ヲ爲シテ船舶及ヒ積荷ノ捕獲ヲ免レ本國ニ歸港ノ  
航路並ニ日時ヲ定メテ解放セラレ得ルハ國際公法上認メ奉リタル慣例ニシテ  
此場合ニ於テハ其約定ノ航路ニ依リ歸航ヲ爲スニ當テ捕獲セラルコトナ  
ク各一定ノ時日間ニ特定ノ金錢ヲ出スノ約定ヲ爲スニ付テハ船長ハ證書ヲ出

シ其賠償證書ハ原本ヲ所持シテ以テ通行券ノ代用ト爲ス然レトモ天候其他避  
クヘカラサル事情ニ迫ルニ非スレバ指定ノ航路ヲ變更シ若クハ歸航ノ時日ヲ  
後ルルトキハ敵國又ハ其同盟國ノ軍艦ハ再ヒ之ヲ拿捕シ得ヘク此場合ニ於テ  
ハ其船舶及ヒ搭載ノ敵物ハ悉ク沒收賣却セラレ其代金中ヨリ前拿捕者ハ賠償  
證書ノ金額ヲ得テ後ノ拿捕者ハ其殘餘ヲ取得スルモノトス而シテ通航券ヲ有  
スル船舶ニシテ若シ海上ニ難破シ又ハ沈没スルトキト雖モ船舶所有者ハ賠償  
證書ノ金額ヲ支拂ハサルヘカラス何トナレハ拿捕者ノ與ヘタル通航券ハ固ヨ  
リ斯ル天災ヲ保證シタルモノニ非サルヲ以テナリ其賠償證書ハ原本ヲ出  
賠償證書ヲ受ケタル拿捕者ニシテ若シ拿捕ニ係リタル商船本國ノ軍艦ノ爲メ  
ニ拿捕セララルトキハ賠償證書ハ無効ニ歸ス隨テ其支拂ニ付キ人質ヲ與ヘタ  
ルトキハ是レ亦解放セラルヘキモノタリ賠償證書ハ戰爭中必要ニ出タル契約  
トシテ法廷ニ於テ其履行ヲ起訴スルコトヲ得ルコトトシタル國多シト雖モ英  
國ニテハ戰爭中敵國人民ノ訴訟ハ一切法廷ニ於テ受理セラルニ由リ普通拿捕  
者ハ賠償證書ト共ニ人質ヲ取リ置テ以テ其人質ノ自由ニ付キ訴訟ヲ爲スコ

トテ許セシ證書ノ義務ヲ戰爭中ト雖モ履行セシムルノ便法ヲ用ヒ來レリ然レトモ元來賠償證書ハ船舶ヲシテ絶對的ニ拿捕ヲ免レシムルニ非スシテ煩雜ナル條件ヲ纏綿シ拿捕者ニシテ敵ノ爲メニ拿捕セララルトキハ證書モ亦無効ト爲ルカ如キ其性質最モ不確定ヲ極メ又主トシテ拿捕者タル箇人ヲ利スルニ出タルノ制ナルヲ以テ英國ハ之ヲ爲メ戰鬪力ヲ減スヘキ嫌アルニ因リ百年前ヨリシテ之ヲ禁シ千八百六十四年海軍捕獲條例ニテ英國皇帝ハ事情ニ由リ賠償證書ノ授受ヲ許可シ得ヘキ規定ヲ爲セタレトモ實際其許可ノ命令ヲ出シタルコトナク海軍士官ハ之ヲ受クルコトヲ禁セラレ商船ハ之ヲ敵國拿捕者ニ出スコトヲ禁制セラレ露西亞瑞典丁扶和蘭國モ亦英國ニ倣ヒ賠償證書ノ授受ヲ禁スルニ至リタレトモ佛國及ヒ米國ニ於テハ之ヲ禁シタルコトナシ總テ賠償證書ヲ禁スルト否トハ各自國ノ政略ニ依ルヘキモノナレトモ國際公法上ニ於テハ未タ之ヲ不法ト爲スモノニ非スハ軍艦ハ再捕權ヲ有シ戰艦ハ之ヲ有セズ再捕權トハ交戰國船舶ノ敵國ニ拿捕サレタル後各自國又ハ戰爭ニ付キ各自國ノ同盟國ノ爲メニ更ニ拿捕ニ因リテ取戻サルモノ行爲ニシテ斯ル場合ニ於テハ其

船舶及ヒ積荷ハ固ヨリ原所有者ヲ手ニ回復サルモノトシ再捕獲者ハ其取戻ノ勢ニ對スル救助料ヲ受クルモノトス凡テ陸上ト海上トヲ問ハス戰爭中一旦敵人ノ手ニ入ラタル物品ヲ取返シタル場合ニ於テ羅馬法ニ於テハ敵人ノ其占有ヲ爲スト同時ニ原所有者ハ所有權ヲ失フコトナシ原所有者自ラ之ヲ取戻シタルトキハ其所有ヲ回復スト雖モ國家トシテ之ヲ取戻ラ爲シタルトキハ其物品ハ國家ノ有ニ歸シ原所有者ハ之ヲ所有ヲ回復スルコト能ハザリシモノトス然ルニ之カ例外トシテ不動產馬匹戰鬪用ノ船舶等ニ付テハ回復權ヲ許シタリ換言セハ敵ノ行爲ニ反對シテ其人民及ヒ財產ヲ保護セントスルノ理由ヲ以テ此等殊種ノ物件ニ付テハ再捕獲ノ場合ニ原所有者ニ其所有ヲ回復シタルモノニシテ此法則ヲ國際公法ニ轉用セラレ來リタルモノトス而シテ茲ニ論スルハ海上ノ再捕獲ニシテ船舶又ハ搭載品ノ敵國ノ捕獲ニ由リ其所有權ノ敵國ニ移リタル場合ニ於テハ原所有者ハ既ニ所有權ヲ失ヒタルヲ以テ再捕獲者ハ理論上ヨリ言ヘバ其物品ヲ原所有者ニ引渡スノ義務ナキカ如シト雖モ此點ニ關シテハ諸國ノ規定一定セズ又其所有權ノ敵國ニ移轉スル時期ニ付テモ諸國ノ慣

例一定セス 英一千八百八十四年以來佛國政府ハ敵國ノ拿捕シタル後二十四時間内ニ再捕獲アリタルトキハ未タ所有權ノ敵國ニ移ラサルモノトシ千六百六十六年和蘭國ハ敵國拿捕者ノ物品ヲ賣却シタルトキト雖モ其船舶ノ新ニ航海ヲ始ムル以前ニ再捕獲アリタルトキハ原所有者ニ回復サルヘキモノトシ千八百六十四年米國ノ法令ニ於テハ敵國ノ捕獲審檢所ニ於テ沒收ノ言渡ヲ受ケタル以前ニ再捕獲アル場合ニ限り所有權ノ敵國ニ移ラサルモノトシ英國ハ千六百四十九年以來ノ慣習ヲ守リ殊ニ千八百六十四年拿捕條例ヲ以テ總テ戰爭ノ繼續間ニ於テ敵國ヨリ其拿捕物ヲ取戻ストキハ再捕獲ノ時日如何ヲ問ハス救助料ヲ拂ハシメテ原所有者ニ返還スヘキコトトシ若シ敵國捕獲者カ之ヲ中立國人ニ賣却シ且ツ捕獲審檢所ノ判決アリタル場合ニ取戻ノ權カシトセリ其外諸國ノ規定ハ英國ノ行為ニ倣ヒタルモノ多シト雖モ此點ニ付テハ國際公法上一定ノ法則ナキカ故ニ各國ノ內國法ニ依ルノ外大テ殊ニ救助料ノ割合ハ諸國ノ國法一定セシタル米國ハ船舶物品ノ代價ニ對スル八分ノ一トシ佛國及ヒ西班牙國ハ二十四

時間内ニ於テ自國船舶ノ官船ニ由リ再捕獲アリタルトキハ三十分ノ一ニシテ其後ノ再捕獲ハ十分ノ一又友誼國ノ船舶ナルトキハ八分ノ一トシ英國ハ八分ノ一ノ救助料ヲ普通トシ再捕獲者ノ冒シタル危險ノ多少ニ由リ四分ノ一迄ニ捕獲審檢所ハ之ヲ定ムルヲ得ト爲スカ如シ然レトモ方今諸國一定ノ法則ト看做ササルコトアリ即チ若シ敵國カ拿捕シタル自國船舶ヲ軍艦其他ノ官船トシテ使用シ居ルトキハ其再捕獲ヲ爲スモ決シテ原所有者ニ回復セラレコトナクシテ再捕獲ヲ爲シタル國家ノ所有ニ歸シ又敵國ノ當初不法ニ捕獲シタル場合ニ於テハ再捕獲者ハ之ニ對シ決シテ所有權ヲ得ル能ハスシテ單ニ其危險ヲ冒シタル救助料ヲ受ケヘタ隨テ敵國ハ中立國船舶ヲ不正ニ捕獲シタル者ヲ再捕獲シタルトキハ未タ敵國審檢所ニ於テ判決ナキトキニ限り救助料ヲ拂フコトナクテ原所有者ニ回復シ審檢所ニ於テ沒收シタル後ナルトキハ相當ノ救助料ヲ以テ原所有者ニ回復サルヘキモノトス

### 第三節 拿捕物ノ處分

交戰國軍艦ノ拿捕ヲ行ヒタルトキハ其船舶ハ中立國又ハ敵國ニ屬スルヤヲ區別スルノ困難アリ又其積荷ハ敵國ノ財産ト中立國ノ財産トヲ識別スルノ困難アルノミナラス屢々之ヲ混スルコトアルヲ以テ拿捕物ハ總テ自國ノ捕獲審檢所ニ送リ其審判ニ付スルヲ正當トシ我國捕獲規程第十條ニ於テモ艦長ハ拿捕シタル船舶ヲ捕獲審檢所最近ノ港ニ引致スヘシト規定セリ然レトモ此正式ノ方法ハ孰レノ場合ニ於テモ履行スルヲ必要トセスシテ時トシテハ拿捕物ヲ同盟國又ハ自國軍隊ノ占領地若クハ中立國ノ港内ニ送リテ處分スルコトナキニ非ス而シテ中立國ハ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ港内ニ入り來ルヲ近世ノ戰爭ニハ禁セントスル傾向アリト雖モ若シ交戰國雙方ニ對シテ偏重ナク之ヲ許スハ國際公法上決シテ禁スル所ニ非ス又大ナル必要ニ迫ルトキハ軍艦ハ拿捕物ヲ捕獲審檢所ノ裁判ナクシテ賣却スルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ審檢所ノ裁判モ直チニ賣却ニ伴ハサルヘカラス

我國捕獲規程第二十條ニ於テ拿捕船舶若シ船體ニ破損等アリテ審檢所ノ所在港迄進航ニ堪ヘサルトキ若クハ船長ノ該船舶ヲ進航セシムルニ充分ナル艦員

ヲ乘込マシメ能ハサルトキ若クハ其積荷ノ腐敗等ノ恐アルトキハ艦長ハ該船舶ヲ最近ノ港ニ引致シ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルコトセリ又拿捕物ヲ保存スルコト困難ニシテ殊ニ危險ノ恐アルトキハ之ヲ破壊シ得ヘク捕獲規程第二十二條ニ於テモ之ヲ規定シ又千八百八十三年「デュレン」國際公法協會ノ決議ニ於テモ拿捕物ハ其船舶ノ海上波浪ニ由リ沈沒セテラシムルコト困難ナルトキ又ハ船舶ノ速力遲緩ニシテ巡洋艦ニ隨伴スルコト能ハサルカ爲メ容易ニ敵國ノ爲メニ取戻サルル恐アルトキ又ハ有力ノ敵艦近ツキ來リテ之ヲ取還サルル恐アルトキ並ニ拿捕物ヲ安全ナル場所ニ送ルニハ需用品ノ缺乏若クハ其送り届クル港ノ遠クシテ安全ニ爲シ得ヘカルサルトキハ其拿捕物ヲ燒却又ハ沈沒セシメ得ヘキコトトセリ

捕獲審檢所ノ裁判ヲ經スシテ賣却若クハ破却ヲ爲スハ其拿捕物ノ全ク敵國ニ屬スル場合ニ於テ之ヲ行ヒ得ヘキハ英佛ヲ始メ其他諸國ノ認ムル所ナリ米國ニ於テハ之ニ一步ヲ進メ同國獨立戰爭並ニ千八百一十二年英米戰爭ニ於テ其海軍ニ訓令シ敵國ノ船舶其他ノ財産ヲ拿捕スルトキハ悉ク破壊スヘキコトヲ命令

シ英國ノ商業ヲ攻撃スルヲ目的トシ非常ニ價值ナル物品ナルカ又ハ同盟國ノ港ニ近キ場合ニ非サレハ拿捕物ヲ港内ニ送ルノ無益ナルノミナラス却テ之ヲ有害トシ凡テ巡洋艦一艘ニシテ拿捕船數艘ヲ保管引致シ得ルニ過キス而シテ其數ヲ加フル毎ニ巡洋艦ノ拿捕ヲ行フ力ヲ減スルヲ以テ其搭載品ヲ取リテ軍艦ノ需要ニ充テ全戰國力ヲ繼續シテ破壊ヲ行フヘキコトヲ以テセリ此訓令タル拿捕物ヲ保存シテ沒收スルヲ例外トシ破壊ヲ目的トシタルニ由リ學者中之ヲ非難スル者尠カラス之ニ反シテ南北戰爭中南軍ハ北軍ノ商船ヲ破壊シタルコトナレトモ是レ全ク南軍ノ港灣ハ北軍ノ爲メ封港セラレタルヲ以テ拿捕物ヲ送付スヘキ港ヲ南軍ノ有セザリシニ由ルニ過キス千八百七十年佛國軍艦ノ俘虜ヲ搭載シ居タルヲ以テ拿捕物ヲ引致スル能ハサルニ由リ獨逸商船二艘ハ中立國ノ財産ヲモ搭載シ居タルニ拘ラス之ヲ破壊シタルコトアリ千八百七十七年露國ハ黑海ノ港ヲ土國軍艦ノ爲メ封港ナレタルニ由リ其拿捕物ヲ破壊シタル如キハ悉ク已ムヲ得タル場合ニ出タルモノトス

行フハ國際公法ノ違反ニテ野蠻の行爲タルコトヲ唱フレトモ元來拿捕物ヲ保全スルハ交戰國ノ私利ト中立國財産ニ對スル好誼ニ出ルニ外ナラスシテ交戰國ニ於テ捕獲密檢所ヲ設ケ其裁判ヲ爲スコトナレトモ敵國ノ財産タル以上ハ之ヲ拿捕シタルトキハ自由ニ處分シ得ヘキモノニシテ審檢所ニ於テ裁判ヲ爲スヘキハ全ク內國法ノ規定ニシテ國際公法ノ原則トシテハ其裁判ノ後ニ於テ賣却又ハ破壊スルモ其裁判ニ先テ破壊スルモ何タル權利義務ノ差異ヲ生スヘキモノニ非ス隨テ敵國財産ヲ拿捕シタル場合ニ於テハ之ヲ破壊スルモ原所有者ニ於テ何タル非難ヲ之ニ爲シ得ヘキ道理ナキニ由リ決シテ咎ムヘカラサルカ如シ此理由ニ依リ拿捕シタル敵國財産ヲ保管スルノ困難又ハ不便ナル場合ニ於テ之ヲ破壊スルハ決シテ妨ナク又近來中立國ニ於テ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ港内ニ入ルヲ禁スル傾向進ムニ從ヒ益々拿捕物ヲ破壊スルノ必要ヲ加フルニ至ルヘク而シテ其破壊ニ際シ中立國物品ノ船舶中ニ存在スルトキハ固ヨリ之ニ對スル賠償ヲ爲スヘク中立國ヨリモ之ヲ求メ得ヘキモノトス

#### 第四節 捕獲審檢所

凡テ海上ニ於テ捕獲シタル物ヲ交戰國ニ於テ裁判スルハ特ニ捕獲審檢所トシテ自國ニ開設セル法廷ニ於テ爲スヘク普通裁判所ニ於テ其裁判ヲ行フ能ハス何トナレハ審檢所ハ國際公法ニ遵據シテ拿捕物ヲ審理裁判スヘキモノニシテ其審判ニ係ル財產ハ嘗ニ敵國ニ屬スル物ニ限ラスシテ公海ニ於テ拿捕シタル中立國ニ關係ヲ有スルモノアルヲ以テ之ヲ審判スルハ國家ノ管轄權ヨリ論スルトキハ寧ロ其船舶其他ノ財產所屬ノ本國ニ於テ裁判スヘキモノナルヘキニ拘ラス國際公法上之ヲ交戰國ニ一任シタルハ捕獲審檢所トシテ特ニ設ケタル法廷ニ限ルモノトス隨テ同法廷ニ於テハ國際公法ニ依リテ裁判シ若シ國內ノ法律規則ニシテ國際公法ニ反スルモノアルトキハ之ヲ適用スルコト能ハスシテ國際公法ノ規定ニ依リ審理判決スヘキモノトス但シ條約上ノ規定ニハ固ヨリ準據スヘキモノナリ中立國捕獲審檢所ニ對スル權利ハ其國ニ對シテ交戰國捕獲審檢所ハ交戰國ノ各自國領内又ハ自國占領ノ敵地若クハ同盟國ニ於テ之

ヲ開設シ得ヘク中立國領内ニ於テ設ケルコト能ハス又中立國ノ官衙ニ其裁判ヲ委任スル能ハス何トナレハ中立國ノ領内ハ交戰國ノ雙方ニ對シ戰爭行為ヲ助クルノ場所トスル能ハサルヲ以テ如何ナル助力ヲ交戰國ニ爲スモ不法ニシテ且ツ危險アルヲ以テナリ隨テ若シ中立國ニ於テ交戰者力拿捕物ヲ裁判スルトキハ之ニ依リ所有權ヲ移轉セシムルモ不完全ト看做サルヘキモノトス又捕獲審檢所ノ組織ニ付テハ各國內國法ノ規定ニ依ルモノニテ日清戰爭中ニハ明治二十七年八月二十日ノ勅令ニテ捕獲審檢令ヲ發布シ之ヲ規定セラレ佐世保ニ捕獲審檢所東京ニ高等捕獲審檢所ノ設置アリ而シテ總テ捕獲審檢所ノ裁判管轄ニ屬スヘキ事項ハ戰爭中ニ於テ自國軍艦其他船舶ノ行ヒタル拿捕物ヲ悉ク審理裁判シ其拿捕ハ海軍單獨ニテ海上ニ於テ行ヒタルト陸上ニ於テ爲シタルト又陸軍ト力ヲ併セテ敵國ノ港灣又ハ河流等ニ於テ拿捕シタル物トヲ問ハス悉ク之ヲ裁判ヲ爲シ戰爭ヲ豫期シテ開戦前ニ行ヒタル拿捕物ヲモ審理シ再捕獲賠償證書並ニ捕獲ニ關シ救助料其他戰爭行為ニ對シテ海上ニ於テ不法行為ニ因リ個人ノ損害虐待等一切ノ事項ヲ審判スヘキモノニテ一般ニ言ヘハ中



立國ノ裁判所ニ於テハ交戰國ノ拿捕ニ關シテ縱令自國船舶ニ關係ヲ有スルコトヲモ裁判スルノ權ナク而シテ捕獲審檢所ノ裁判ハ捕獲者ト物品所有者ノ間ニ於テ其判決ヲ最終トシ他國ニ於テ之ヲ覆審スルコト能ハス而シテ其判決ノ責任ハ政府ニ屬シ若シ不法ノ裁判ナルトキハ他國ニ於テ之ヲ無効ト看做シ其國人民ノ被害ニ付キ賠償ヲ得ヘキニ過キス然レトモ若シ交戰國ノ拿捕ヲ中立國領海ニ於テ行ヒ又ハ中立國領内ニ於テ交戰國ノ戰爭準備ヲ爲シ船舶ヲ燒燬シテ拿捕シタル物ナルトキハ中立國ノ權利ヲ侵害シタルモノナルニ由リ斯ル船舶ノ拿捕物ヲ率ヒテ其領内ニ入ルトキハ中立國裁判所ハ其拿捕物ニ付キ裁判スルノ權利ヲ有スルモノトス

捕獲審檢所ノ裁判手續ニ付テハ其國內國法ノ規定ニ依リ之ヲ定ムルヲ以テ諸國同シカラス隨テ其詳細ヲ研究スルノ必要ナシト雖モ要スルニ列國ニ通シ其審判ハ普通裁判所ニ於ケルト趣ヲ異ニシ普通裁判所ニ於テハ訴訟當事者間ノ辯論ニ基キ之カ判定ヲ下スト雖モ審檢所ニ於テハ寧ろ交戰國政府ノ自ラ進ンテ拿捕物ニ付キ審問スルノ性質ヲ有シ又審判ハ捕獲者ニ於テ起訴スト雖モ若

シ起訴ヲ猶豫スルトキハ拿捕物所有者ヨリシテ審判ヲ審檢所ニ請求シ得ヘキモノトス

## 第七章 戰國ニ關スル法則

### 第一節 總則

交戰國ハ海陸ノ戰國ニ於テ敵國ニ加ヘ得ヘキ暴力ノ程度ニ付キ戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要ナル慘酷ヲ制限シ其兵力抵抗ヲ滅殺スルニ必要ノ苦痛ヲ與フヘキコトヲ禁セラレ戰爭ノ目的ニ反シ若クハ之ニ比例セサル暴力ノ濫用ヲ許ササルモノトス加之交戰國ハ全ク敵對ノ地位ニ立ツモノナレトモ其間ニ於テ幾分カ好誼ノ關係存スヘキハ人類社會ニ伴ヒタルノ現象ニテ古來戰爭ニ於テ必ス其形跡ノ存シ來リタルモノトス然レトモ其好誼ノ關係タル固ヨリ平和的ノモノニ非ス單ニ交戰者間ニ一時暴力ヲ中止スルニ止マルモノニシテ其好誼ヲ實行セントスルノ時期ハ雙方ノ希望ニ於テシ其便宜ニ基クニ因リ一戰爭中ニ於テ其事情ニ由リ之ヲ實行スルト否トハ交戰者ノ任意ニ在リト雖モ之ヲ

付フニ當リ其方法ニ付テハ一定ノ慣例存在セシ交戰國ハ誠實ニ其實行ニ努ムヘク違反アルニ於テハ對手國ハ復仇ノ手段ニ出テ得ヘキモノトス此慣例ヲ名ケテ交戰國間ノ平和ノ交通又ハ非敵意ノ關係ト謂フ

## 第二節 敵人ニ對スル加害ノ程度

平和會議ノ陸戰例規ニ於テモ交戰者ノ害ノ手段ハ規律上無限ノ權力ヲ有スルコトナシト規定セル如ク敵國戰闘者ニ對シテ加害ノ程度ハ慣例上一定セラレ居ルモノトス今戰闘中不法トシテ國際公法上嚴禁スルモノヲ列舉セハ左ノ五種トス

第一 暗殺 戰爭ノ勝敗ハ往往敵國ノ君主若クハ敵軍ノ將帥等ノ存否ニ關スルコトアルヲ以テ昔時戰爭ニ於テ暗殺行ハレ羅馬ニ於テモ暗殺ノ種類ニ由リテハ其罪ヲ賞賛シ「ドロシュー」ニモ暗殺ニ付キ信用ヲ害スルモノト然ラサルモノトヲ區別シ其當否ヲ論シタルモ今日ニ於テハ全ク之ヲ嚴禁シ「ブルッセル」宣言ニモ敵國又ハ軍隊ニ屬スル個人ヲ詐術ヲ以テ殺害スルヲ禁ストノ規定アリ

茲ニ暗殺ト云ヘルハ兵士又ハ個人ノ形狀ヲ變シテ敵人ヲ詐リ其營中ニ忍ビ入リ將帥其他ヲ殺害スルモノニテ斯ル行為ヲ爲ス者ハ勿論斯ル刺客ヲ使用シ獎勵シ又ハ補助スルハ不名譽ニシテ憎ムヘキ行為ナルカ故ニ決シテ之ヲ行フコト能ハス然レトモ暗殺ト襲撃トハ全ク別ニレテ例ヘハ軍服ヲ著セタル兵士若クハ軍人ノ一團カ暗夜ニ乘シ竊ニ敵營ニ入りテ將帥ヲ殺害スルカ如キハ決シテ暗殺ニ非スシテ却テ勇敢ノ行為ナリ

第二 毒藥 毒藥ヲ使用スルハ古來戰爭ニ於テ行ハレタルモ「ドロシュー」ニテ始メ諸學者ノ之ニ非難ヲ加ヘ開明國人ノ行為ニ反對スルモノトシ諸國ノ國法ニ於テモ之ヲ禁スルニ至レリ「ブルッセル」宣言「オックスフォード」陸戰法規ニモ其禁止ノ明文アリ方今ニ於テハ嚴禁スル所タリ凡テ敵國人ノ生命及ヒ財産ニ對シ有力ナル加害ノ武器其他ノ物件ヲ發明シテ之ヲ使用スルハ適法ナレトモ毒藥ノ武器ヲ用フルハ戰爭ノ慘酷ヲ加フルニ止マリ既ニ負傷シ戰闘ニ堪ヘサル者ニ苦痛ヲ生スルニ過キサルカ故ニ毒藥ノ使用ヲ禁スル所以ナリ隨テ武器彈藥中ニ之ヲ用フルヲ嚴禁シ殊ニ飲用水又ハ食物飲料ニ毒藥ヲ使用スルハ一層嚴

禁スル所トス何トナレハ前述ノ理由ニ因リ是レ管ニ戰闘者ニ對シテ不必要ナルノミナラス之ヲ用フルノ詐僞的ナルト之ニ伴フ慘酷ハ無辜ノ人民ノ其害ヲ被ルヘキ危險アルヲ以テナリ又同一ノ理由ニ因リ平和會議ニ於テ締盟國ハ寧息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ撒布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止ストノ宣言ヲ爲セリ

第三 不必要ノ苦痛ヲ與フル彈丸 戰爭ハ敵ノ兵力抵抗ヲ殺タヲ以テ目的トスルカ故ニ千八百六十八年西班牙ヲ除クノ外歐洲強國ハ露國ベテルブルグニ代表者ヲ送り四百瓦以下ノ破裂物ヲ含有スル彈丸ヲ戰爭ニ用ヒサル宣言ヲ爲セリ此宣言ニハ諸國ノ加盟セサルモノアレトモ方今ノ慣例上之ニ加盟セサルヲ利用シテ同一ノ彈丸ヲ用ヒ不必要ノ苦痛ヲ與フルハ到底爲スヘカサルニ至リ此規定ハ自ラ國際公法ノ一部ヲ爲シ「ブルセル」宣言ニ於テモ之ヲ援用シ又武器彈藥其他戰爭用ノ物件ニシテ不必要ノ苦痛ヲ與フルモノヲ禁ストノ規定アリ陸戰例規ニ於テモ無益ノ苦痛ヲ與フヘキ武器彈藥其他ノ物質ヲ使用スルヲ禁スト明言セリ隨テ彈丸ノ外ニ鐵片其他ノ金屬又ハ硝子等ヲ發射スルハ一

般ニ許ササル所トス又彈丸ト雖モ不規則ナル形ヲ爲シタル物ヲ發射スルハ負傷者ニ苦痛ヲ與フルノ理由ヲ以テ不法トシ昨年平和會議ニ於テモ英國ノ埃及遠征ニ用ヒタル「ダムダム」丸ト稱シ人體ニ入りテ其一端ノ膨脹スル彈丸ヲ非難シ遂ニ宣言ヲ以テ締盟國ハ外包梗固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ外包セス若クハ其外包ニ削刻シタルモノノ如キ人體ニ入り容易ニ開展シ若クハ扁平ト爲ルヘキ彈丸ノ使用ヲ互ニ禁スルコトト爲シ其外締盟國ハ宣言ヲ以テ輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル他ノ方法ニ依リ投射物及ヒ爆裂物ヲ發射スルコトヲ五箇年間禁止スルコトト爲セリ此等ノ宣言ハ未タ其規定ヲ全ク國際公法ト云フ能ハスト雖モ間然スル所ナキヲ以テ遠カラステ其實行ヲ觀ルニ至ルヘク斯法ノ法則ト爲ルヘキカ如シ要スルニ方今武器彈丸ノ使用ニ付キ適法ト否トノ歧ルルハ其破壞力ノ大小ニ非ステ敵國ノ抵抗力ヲ減スル程度ニ比シ其與フル苦痛ノ多少ニ由ルモノナリ例ヘハ水雷ノ如キハ軍艦全體ヲ沈没セシムレトモ其使用正當ニシテ彈丸ニ統敵ヲ附著スルカ如キハ斯法上大ナル犯則トス

## 第四 破壊

昔時ノ戰爭ニ於テハ敵國領土ニ對シ無制限ノ破壊ヲ爲シタリシカ方今ハ全ク之ニ反シ交戦國ハ敵國ノ財産及ヒ其農工業等ヲ保護スヘキ責任ヲ有スルコトト爲レリ然レトモ破壊ハ戰爭ニ於テ絕對的ニ禁セラレタルニ非シテ之ヲ行ヒ得ヘキ場合アリ「グロシュー」ハ我要求ヲ容ルルニ至ラシムヘキ小時間ノ破壊ハ爲シ得ヘシトシ「バテル」ハ敵軍ヲ防衛シ若クハ野蠻人ヲ懲戒スル爲メニ破壊ヲ行フハ禁スル所ニ非スト論セリ今日ニ於テハ戰爭ニ於テ破壊ヲ行ヒ得ヘキ場合ト常ニ行フヘカラサル場合並ニ事情ニ因リテノミ之ヲ行ヒ得ヘキモノト區別スル必要アリテ常ニ之ヲ行ヒ得ヘキハ例ヘハ防禦ノ場所ヲ堅固ニシ又ハ敵軍ヲ攻撃若クハ自國軍ノ防禦ヲ容易ニスル爲メ軍隊ヲ進退ヲ自由ト爲スカ如キ作戰上ニ必要ノ場合ニシテ常ニ破壊ヲ行フヘカラサルハ例ヘハ寺院又ハ公ノ建築物ニシテ敵軍ニ使用セラレ居ラサル物若クハ使用サルヘキ地位ニ在ラサルカ如キ作戰上ニ何タル關係ナキ破壊トス而シテ軍隊ノ生存ニ必要ニシテ其亡滅又ハ降服ヲ避クル爲メ必要ナル破壊ハ如何ナル場合ニ於テモ怨ムヘカラサルモノニシテ陸戰例規第二十三條ニ戰爭ノ必要上萬

已ムヲ得サルノ外ハ敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押收スルヲ禁スルノ規定アリ茲ニ注意スヘキハ例ヘハ千八百十三年佛國軍ノ進撃ニ際シテ露國ハ莫斯科府ヲ燒燬シ和蘭國モ展第十七世紀第十八世紀ニ於テ佛軍又ハ西班牙ヲ防禦スル爲メ水門ヲ開キ海水ヲ國內ニ入レタルカ如キ自國財産ニ對スル破壊ハ決シテ禁スル所ニ非ス隨テ敵國財産ニ對スル破壊ト自國財産ニ對スル破壊トノ間ニハ大ナル區別存在シ敵國財産ニ對シテ「ブルセル」宣言第十五條乃至第十八條ニ之ヲ規定シ陸戰例規第二十五條乃至第二十八條ニ於テ防禦ナキ市府村落居宅又ハ其他ノ遺物ヲ攻撃若クハ砲撃スルヲ禁シ攻擊軍ノ司令官ハ吶喊進撃ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其旨ヲ官廳ニ通告スル爲メ總テ其權内ニ屬スル手段ヲ盡スヘキモノトシ合圍及ヒ砲撃ニ於テハ宗教技藝學術及ヒ慈善ノ爲メ設ケタル建造物並ニ病院其他病者負傷者ノ收容所ハ其軍事上ノ目的ニ供セラレサルニ於テハ可成之ヲ避クル爲メ必要ノ手段ヲ施スヘキコトトシ内溝突進ヲ以テ陷レタル市府其他ノ地域ト雖モ掠奪ヲ行フコトヲ禁スト規定セリ

第五 無救命ノ宣言 第十七世紀以後ヨリシテ戰勝軍ハ戰敗者ニ對シ其生命

ヲ救助スルノ義務アルモノトセラレルニ至レリ小ナル城壘ニ據リ到底對抗スヘカラサル大軍ニ向ヒ頑固ニ抵抗シ其進軍ヲ妨クルトキハ其生命ハ救助スヘカラストノ法則ハ古來行ハレ其理由ハ斯ル抵抗ハ無益ノ殺傷ヲ爲スニ過キスト云フニ在リ然ルニ世ノ進歩ト其ニ不完全ナル城壘ヲ堅ク守リタルノ故ヲ以テ其生命ヲ救助セサルハ人情ニ反ズルモノナルト同時ニ歴史ニ就テ觀ルモ小軍ヲ以テ城壘ヲ固守スルハ無益ナル殺傷ニ非スシテ之カ爲メニ國家ノ運命ヲ挽回シタルコト渺カラス隨テバタルモ如何ナル場合ヲ問ハス兵器ヲ捨テタル敵人ハ有罪ナル者ヲ除クノ外殺戮スヘカラスト論シ方今ニ於テハ無救命ノ宣言ヲ敵軍ニ對シテ爲スハ不法ト爲スニ至リアルモ此ノ宣言並ニ陸戰例規ニ於テモ其規定アリ但シ茲ニ所謂助命ノ恩典ヲ與フヘキモノトスルハ如何ナル場合ニ於テモ其生命ヲ救助スヘシト云フニ非スシテ自國軍隊ノ事情ニ於テ之ヲ救助スルハ軍隊ニ來スヘキ危險アリテ其危險ハ急激必要且ツ至大ニシテ他ニ之ニ代フルノ方法ナク又手段ヲ擇フノ暇ナキ場合ニハ殺戮シ得ヘキハ既ニ違フタルカ如シ隨テ無救命ノ宣言ヲ禁スルハ斯ル非常ノ場合及ヒ復仇ニ出ル場

此區別ハ警察ノ法理ヲ論スルニ當リテハ實ニ價值ナキモノト謂フヘシ何トナレハ司法警察ハ其實司法ノ補助行爲タルニ過キスシテ警察ノ性質ニ屬スヘキモノニアラサレハナリ左レハ司法警察ノ研究ハ司法官ノ職權ニ關係スルコト多クヲ以テ刑事訴訟法ト併セテ之ヲ論究スルコトヲ要ス此ニ注意スヘキコトアリ我邦ニ於テハ行政警察ナル名稱ヲ種種ナル意義ニ用ヒ來レリ例ヘハ或ハ司法警察ニ對シテ廣ク之ヲ稱スルカ如キ即チ太政官逓行行政警察ノ如キ是ナリ或ハ高等警察及ヒ特種行政中ノ所謂行政警察以外ノ箇人保安警察ヲ稱スルカ如キ即チ内務省官制第六條ニ稱スルカ如キ是ナリ之ヲ要スルニ警察ハ行政ノ一部分ナル以上ハ之カ分類ハ宜シテ行政ノ範圍内ニ於テセサルヘカラスト此點ヨリ見ルモ司法警察ヲ以テ警察ノ分類中ニ入ルルハ法理上適合セル分類ニアラサルヤ論ヲ待タサルナリ

第四 高等警察及ヒ下等警察  
高等警察ナル語ハ之ヲ種種ナル意義ニ用フ而シテ之ヲ下等警察ト對稱スル場合ニ於テハ或ハ官廳ノ地位ニ據リテ之ヲ分コトアリ即チ高等警察トハ國家

最上ノ中央權ヲ有スル者即チ主權者ニ屬セル警察ノ權能ナリ而シテ警察ノ其他ノ應用ニ付テハ之ヲ下等警察ト稱ス千八百二十二年發布ノ「リウルタンベルグ國行政法律」ヲ見ルニ國王直隸ノ警察ハ之ヲ高等警察ト稱シ其他侯伯ノ行フヘキ警察ハ之ヲ下等警察ト稱セリ或ハ曰ク高等警察ニ屬スル事項ハ議會ノ協賛ヲ經タル警察法律ノ發布及ヒ下級警察官廳ニ對スル上級官廳ノ監督是ナリト來因同盟律第二十六章ニモ此意義ニ於テ高等警察ヲ説明セリ然レトモ是レ警察ト警察權ヲ混同セルノ議論ニシテ其分類ノ誤レルコトハ此ニ論明ヲ要セナル所ナリ

或ハ高等警察ナル意義ハ之ヲ最高中央官府ヨリ發セラレタル秘密警察ノ意義ニ用ヒラルルコトアリ蓋シ依リテ以テ公ノ秩序ニ屬スヘキ政治思想及ヒ政治上ノ企謀ヲ探ラントスルニ在リ而シテ是レ殊ニ佛蘭西ノ外交政治以外ノ政治上ノ意義ニ於テ行ハルルモノナリ

(モニル)  
警察官廳ニ對スル上級官廳ノ監督是ナリト來因同盟律第二十六章ニモ此意義ニ於テ高等警察ヲ説明セリ然レトモ是レ警察ト警察權ヲ混同セルノ議論ニシテ其分類ノ誤レルコトハ此ニ論明ヲ要セナル所ナリ

我邦ニ於テ所謂高等警察ト稱スルハ國事警察ノ謂ニシテ其目的トスル所國家

ノ安寧秩序ヲ維持スルニ在リ又所謂下等警察ナル名稱ハ我邦ニ於テハ之ヲ用ヒサルモ強テ之ニ依リ分類セントセハ所謂下等警察トハ普通警察トモ稱シ其職務ハ箇人ノ安寧ヲ保護スルニ在リトス蓋シ一箇人ノ生命財產ニ損害ヲ生スルノ危險ヲ豫防スルコトハ各人自ラ爲スヘキコトナリ然レトモ其危險ハ一箇人ノ力ヲ以テ防禦シ得サルアリ而シテ此場合ニ於テ始メテ之ヲ公共ノ危險ト看做シ國家ノ權力ヲ應用シテ之ヲ防禦セサルヘカラス故ニ例ヘハ一箇人ノ行為カ人民ノ生命財產ヲ害スルノ危險アル場合ニハ之ヲ防カサルベカラサルカ如シ之ヲ要スルニ高等警察ノ性質ハ政治上ノ秩序ヲ紊亂スル虞アル場合ニ於テ人民ノ行為ヲ制限スルモノナリ而シテ其行為ハ元來詐欺欺騙ノ如キ罪惡ノ性質ヲ有スルモノニアラス出版ノ如キ結社ノ如キ集會ノ如キ何レモ皆臣民自由ノ行為ニシテ憲法ノ保障スル所ナリ而シテ高等警察ハ唯其治安ヲ害スル場合ニ於テ之ノミ之ニ干渉スヘキナリ

余輩ハ雖ニ警察ヲ以テ行政行為ナリトシ彼ノ警察法律ヲ制定スル如キハ警察「ニアラス」ト稱セリ故ニ此意義ニ依レハ君主大權ノ直接ノ作用ニ依リ公安維持

ヲ爲メ戒嚴令ヲ宣布シ又ハ保安條例ヲ發布スルカ如キハ警察ニアラスシテ警察權ノ問題ニ屬スヘキモノナリ

第五 一般警察及ヒ地方警察

一般警察ト地方警察トノ區別ハ頗ル廣ク行ハレタルモノナリ或ハ此區別ヲ爲スニ國家全體ノ利益若クハ團體ノ利益ニ據リテ之ヲ分ツ者アリ即チ一般警察ハ團體ノ全體又ハ總テノ國民若クハ全州ノ秩序及ヒ公安ヲ總括スト雖モ地方警察ニ至リテハ唯公法上ノ團體タル郡市町村ニ適當セル利益ヲ之カ危險ニ對シテ防クモノナリト云フニ在リ然レトモ此區別ハ未タ以テ判然タリト謂フヲ得ス(命令第一三五頁)左レハ或學者ハ此區別ヲ爲スニハ警察官廳ノ區畫ニ從フヘキモノニシテ即チ中央行政官ノ職權ニ屬スルモノハ之ヲ一般警察ト謂ヒ地方團體ノ自治ノ範圍ニ屬スルモノハ之ヲ地方警察ト稱スヘキナリト論セリ例ヘハ普滿西ノ憲法ニ曰ク

區ハ獨立シテ地方警察ヲ含有シテ團體事件ヲ行政スルヲ得

下尙ホ國ニ因リテハ兩者ヲ併セテ管轄スルコトアリ例ヘハ(ハンノ)州ニ於

テハ知事ハ地方警察權ヲ併有シ又伯林府ニ於テハ警視總監ハ地方警察權ヲ併有スルカ如シ(ボルン)氏ハ(警察法)第三卷一五二頁ニ於テ

之ヲ要スルニ右ノ意義ニ依ルトキハ一般警察トハ國家警察ノ意義ニシテ地方警察トハ自治體ノ警察ト云フノ意ナリ左レハ之ニ要スル費用ノ如キモ前者ニ付テハ之ヲ國庫ヨリ支辨シ後者ニ付テハ之ヲ其團體ニ於テ負擔セサルヘカラス我國ニ於テハ英國ノ如ク此區別ヲ認メス地方警察ノ文字アリト雖モ一地方ニ限ル警察權ト云フノ外ナキナリ例ヘハ警視廳ニ於テ行フ警察ハ東京府ナル一地方ニ對シテノミ效力アルモノニシテ之ヲ誤リテ東京市ナル自治團體ノ有スル警察ト解スヘカラス蓋シ我國ニ於テハ警察トハ常ニ直接國家權力ノ應用ニシテ原則トシテハ團體警察ノ主義ヲ採ラス故ニ現今ノ如ク警察費ノ幾分ヲ地方稅ヨリ徵收スルハ其謂レナキモノニシテ我邦ノ警察ハ其性質上宜シク之ヲ國庫支辨ト爲スヘキモノナリ

第六 保安警察及ヒ行政警察

ボルン)氏ハ警察ノ分類ヲ論スルニ當リ警察ノ目的ハ治安ヲ維持スルニ

在リ故ニ保安警察ノ爲メニ國家ハ殊ニ特別ノ官廳ヲ設ケス特ニ警察命令ヲ發セシムルモノナリ蓋シ保安警察ノ目的ハ一二ノ危險ニ對シ格段ナル方法ニ依リ團體ヲ保護スルニ在ラスシテ全體ノ公私法序ヲ亂サレシムル様ニ維持シ以テ國家若クハ個人ノ安寧ヲ計ルニ在リト（ドイツ國憲法第五條）而シテ此ニ所謂行政警察ト稱スルハ司法警察ニ對スル如キ廣義ノ意味ニアラスシテ保安警察ニ對シテ之ヲ稱スルモノニシテ保安警察ノ如ク獨立セル固有ノ機關ヲ有スルニアラス又其基礎トシテ固有ノ警察規則ヲ有スルニアラス唯特別ノ行政ニ從屬セル事項タリ左レハ此ニ特種ノ行政アレハ亦之ニ伴フ行政警察アリト稱スルコトヲ得ヘシ例ヘハ鎮山警察ハ鎮山行政ヲ論スルニ當リテ併論スヘク山林警察ハ山林ノ行政ヲ論スルニ當リテ論究スヘキナリ

「ユルチユー」氏モ其著獨乙國家論ニ於テ論シテ曰ク

抑モ人力ニ由リテ公安ヲ害スヘキ危險ノ性質ハ二種アリ其一ハ綜合力ニ於テ存スルモノニシテ一般治安ノ狀況ニ危險ヲ及ホスモノ是ナリ此種ノ危險ハ其性質頗ル不定ナルモノニシテ團體中總テノ生活關係ヲ含ムモノナリ而

シテ其他ノモノハ或一定特種ノ行政事項ヲ害スヘキ人類行為ニ對スル危險是ナリ是ニ於テカ保安警察及ヒ行政警察ノ區別ヲ生ス而シテ保安警察ハ獨立セル境界ヲ有ス何トナレハ保安警察ハ獨立セル作用トシテ自己特有ノ機關ヲ有シ自己ノ權力ヲ以テ進行スヘキモノナレハナリ之ニ反シテ行政警察ハ各部ノ行政區域内ニ固著セル一部分ヲ成セリ蓋シ殊ニ其本性ニ於テ一般ニ治安ヲ害スルト云フニアラスシテ唯特種ノ行政ノ目的ヲ達センカ爲メニ命令若クハ禁令ヲ發シ之ニ對スル取締ヲ行フナリ左レハ行政警察ハ其性質上各種ノ行政ト共ニ學理的ニ規定セラルヘキモノナリ何トナレハ警察中此各部分ニ屬スル事項ハ之ニ適セル行政事項ノ主義ニ依リテ定マルモノナレハナリ例ヘハ森林警察ハ森林法ノ格段ナル問題ニ由リテ定マルカ如シ（ルチユー「ユルチユー」氏行政法第一卷二六二頁）

此ノ如ク行政警察ノ保安警察ト異ナル點ハ或特別ナル行政ヲ爲ス爲メノ警察ヲ謂フ故ニ例ヘハ狩獵警察ノ爲メニ巡查ヲ利用スル如キ場合ニハ警察ハ一種ノ委任ニ出ツルモノニシテ其固有ノ職權ヲ用フルモノニアラス故ニ狩獵警察



ニ對スル責任ハ内務大臣ニ屬セスシテ農商務大臣ニ屬スルカ如シニ  
余ハ右ニテ保安警察及ヒ行政警察ノ區分ヲ論究シタルヲ以テ是ヨリ進ミテ保  
安警察ノ分類ヲ論究セントス左レハ此區別ハ保安警察ノ小別ニシテ既ニ保安  
警察及ヒ行政警察ノ區別ヲ認メタルノ後ニ屬スヘキ問題ナリ  
余ハ保安警察ヲ分テテ高等保安警察及ヒ簡人保安警察ノ二種ト爲セントス所  
謂高等保安警察トハ國家ノ安寧ヲ目的トシ所謂簡人保安警察トハ簡人ノ安全  
ヲ目的トスルモノナリ蓋シ簡人ノ安全ヲ目的トスルトハ簡人ノ危險ニ干渉ス  
ルノ間ナリ然レトモ如何ナル場合ニ於テ簡人ハ危險ナルヤ之ヲ一定スルヲ得  
タルナリ左レハ警察ハ其危險ノ虞アル場合ニ於テ始メテ之ニ干渉スヘキナリ  
而シテ此等臣民ノ發達ヲ害スヘキ行爲ハ其性質上罪惡ニアラスシテ寧ロ人ニ  
屬スル自由ノ行爲ナリ左レハ警察上ヨリ禁令ヲ發スルニ由リ此ニ始メテ違警  
ト爲ルモノナリ通例ノ學說ニ於テ簡人保安警察ニ屬スヘキモノハ風俗居住、  
營業交通等ノ警察ナリトス例ヘハ營業警察ニ於テ銃砲火藥商ノ數ニ制限ヲ設  
クルハ營業ノ自由ヲ束縛スルモノナリ又道路警察ニ於テ交通ヲ制限スルハ人

排雜物ハ氣密ニ閉蓋セル鐵函車ノ内ニ之ヲ集メ毎日監獄構外ニ之ヲ輸送スヘ  
シ汚水ハ常ニ敏活之ヲ外部ニ疏通シ去ラシムルヲ要ス  
點燈上最モ便利ナルモノヲ瓦斯ト爲ス唯瓦斯ハ費用ヲ要スルコト少カラス燈  
火動搖シ空氣ヲ不潔ナラシムルコト亦其缺點タリ油燈亦惡臭ヲ放テ眼力ヲ害  
シ且ツ危險ノ虞アル等ノ缺點少カラス唯經費ノ上ニ於テ節減ヲ得ルコト其長  
所タリ現今ニ在リテハ一般ニ瓦斯ヲ稱用スルモノ多シト雖モ油燈亦其取扱上  
ニ慎重ノ注意ヲ施ストキハ一概ニ之ヲ排斥スヘキニアラス但シ油燈ナルトキ  
ハ火止石炭油ヲ用フルヲ可トス近時又往往電氣燈ヲ用フルモノアリト雖モ多  
費ヲ要スルカ爲メニ未タ其擴張ヲ見ルニ至ラサルモノノ如シ  
監房ニ於テ若シ冬期暖室ノ必要アリトナラハ宜シク中央集熱法ヲ採用スヘシ  
病室工場事務所等ニ於テハ局所暖室法ヲ適當トス中央大體ハ中央看守所

第三節 分房制大監獄ノ構造

分房制大監獄ノ建造物ハ一ノ中央集點ヨリ其母屋内部ノ全體及ヒ附屬營造物

ノ設置タル周壁園内ノ外景ヲモ通観ヲ得ヘキ方法ニ排列スルノ注意アルヲ要ス中央集監ハ即チ中央看守所ニシテ監房及ヒ事務所ノ翼含ハ扇面狀若クハ十字形ヲ成シテ此ニ混合シ經理及ヒ病監構内モ亦此位置ヨリ視察ニ便ナラシムル様其建物ヲ配置スヘシ十字形ハ三翼ヲ以テ監房トシ一翼ヲ以テ事務所トシト爲スカ故ニ之ヲ扇面形四翼ヲ以テ監房トシ一翼ヲ以テ事務所ト爲スニ比スレハ能ク空氣及ヒ光線ヲ通シ且ツ各翼ノ間隔絶シタル距離アルヲ以テ容易ニ四人相互ノ交通ヲ遮斷スルヲ得ルノ利便ヲ有ス分房監房ハ二翼アルヲ以テト立シテ鋭角狀ニ之空氣及ヒ光線ヲシテ各翼均一ニ享受スルヲ得セシメンカ爲ノニハ事務所ノ翼含ハ宜シク南東ヨリ北西ノ方位ニ向ケテ建設スルヲ要ス病監ハ入口ヨリ左側ニ當ル所ノ構内ニシテ其前面ヲ南東ニ向ケ成ルヘク多ク光線ヲ享有シシムルノ構造トシ經理用建物炊所洗濯所等ハ右側ニ區處シタル構内ニ之ヲ設ク其前面ハ南西ノ方位ニ向ケシムヘシ經理構内ニハ工業又ハ用度ニ關スル物品ノ倉庫ヲ附設スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ倉庫ハ相當ノ距離ヲ以テ周壁ト並行セシメ其間ニ直平ノ視察線路ヲ造成スルノ注意アルコ

ト必要ナリ運動場ハ各翼ノ間ニ於ケル其他ノ空地ニ簡單ナル橢圓形ノ回路ヲ造リテ之ニ供シ四人ヲシテ五歩ノ距離ヲ以テ相前後シテ此ニ運動セシムヘシ

空地ニ關スル分房制ヲ施行スル監獄ニ在リテハ其間ノ

中央看守所ハ地平面ヨリ屋根ニ至ル迄開放シテ構造シ尙ホ隅角ニ大窓ヲ穿テ以テ日光ノ照射空氣ノ交換ヲ充分ナラシムヘシ技術上ノ裝飾ヲ慮リ塔字形若クハ圓字形ニ中央看守所ヲ造築スルハ無用ナリ唯翼舍トノ權衡ヲ量リ簡單ニ其廊下ト同一ノ高サニ構造スルヲ以テ足レリトスヘシ中央看守所モ亦廊下トナルヲ爲サレムヘキモノナル故ニ錯雜ニ必要ナル構造ヲ爲シ後翼舍ノ同廊ハ中央看守所ノ壁ニ沿フテ其外部ヲ圍繞シ尙ホ管理翼舍ノ壁ニ沿ヒ第二階ノ同廊ヨリ中央看守所ノ中央ニ向ヒテ視察臺ヲ突出セシメ以テ看守長ヲシテ常ニ此處ニ在リテ戒護事務ヲ視察セシム翼舍ノ混合スル所ノ隅角ニハ二箇ノ一階造設ケスルヲ場所ヲ設ケ其一箇所ヲ浴室トシ他ノ一箇所ヲ被服類領置所若クハ共同就役場ニ供スヘシ中央看守所ノ地下層ニ於テハ中央集熱法ニ用フル所ノ火爐ヲ設置スヘシ地下層ハ天井ヲ弓形ト爲シ床ハ地上ノ第一階ト均シク地氈

青ヲ以テ固ク之ヲ敷設スルコトヲ要ス又中央看守所ノ地平層ニ階梯ヲ設ケ以テ各翼舎ノ地下層ニ通セシムヘシ  
監房翼ニハ中間ニ四メートル乃至四メートル半ノ廊下ヲ設ケ其兩側ヲ以テ監房ト爲ス廊下ハ地下層ノ基底ヨリ屋上層ニ至ル迄盡クバノブチツツニ即チ打チ通フシト爲スノ構造トス地下層ニモ亦監房ヲ以テ地下層ノ基底ハ地下七十センチメートルヨリ深カラサルヲ要シ建築ノ位置ハ最も乾燥質ノ地勢ニシテ地下水ハ基底以下少クモ五センチメートルニ至リテ始メテ湧出スルノ土地ヲ選定スルコト必要ナリ二階以上ノ上層ニハ監房ノ前部ニ幅〇九〇メートルヲ選定スルコト必要ナリ二階以上ノ上層ニハ鐵欄干ヲ以テ之ニ附ス此回廊ニハ監房翼ノ地下層及ヒ中央看守所ノ地平層ヨリ直線ニ階梯ヲ以テ之ニ通ス各層ノ片側ニ設ケル監房ノ數ハ十八房以上二十二房以下ト爲シ每層其中央看守所ニ接近スル一房ヲ看守室トシ翼端ノ一房ヲ洗濯室ニ供充スヘシ總テノ廊下及ヒ地下層ニ於ケル監房ノ床ハ下地ニ煉瓦ヲ疊ミ其上ニ「アスハルト」又ハ硬質ノ圓石ヲ敷クヘク其他ノ監房ノ床ハ氣候及ヒ價額ノ關係ニ依リ木材「アスハルト」又ハ堅

ナル鋪石ノ内其何レヲ選用スルモ可ナリ回廊ハ鐵柱ヲ以テ支ヘタル穹窿ノ平面ニ木材ナリ圓石ナリ將タ「アスハルト」ヲ便宜之ヲ敷設スヘシ地平層ニ於ケル監房翼ノ尾端ヨリ庭園ニ通スルロニハ二重ノ戸隔ヲ設ケ一ハ鐵製ノ格子戸トシ一ハ板戸トシテ密閉ス監房翼ノ屋根ハ火災ノ危險ヲ慮リ成ルヘク木材ノ結構ヲ避クルヲ要ス「シウスタル」コラニ「グ」兩氏ノ考案ニ係ルモノハ全ク木材ヲ用ヒサルノ趣向ニシテ即チ最上層監房ノ穹窿ハ廊下ノ壁ヨリ外部ノ壁ノ方ニ傾キテ屈曲シ「ホルツセメント」ヲ以テ屋背ヲ被覆シ前ニ亞鉛製ノ樋ヲ設ク廊下ノ兩側ノ壁ハ兩側ノ屋背ヨリ二メートル餘之ヲ高クシ其上ニ穹窿ノ構造ヲ設ケ柱ヲ以テ之ヲ支ヘ同シク「ホルツセメント」ヲ以テ屋背ヲ覆ヒ又亞鉛製ノ樋ヲ設クルモノ是ナリ

#### 第四節 監房ノ構造

分房ハ晝夜分房及ヒ夜間分房ニ分テ又晝夜中ノノ二種ニ分テ其廣サニ於テ著ク區別スル所アリ分房間隔行ノ監獄ニ從事セシム健康ノ便法ヲ採リ通例其良ニ對シ

スルヲ分ノ五乃至百分ノ十ハ此限即チ晝夜分房ニ在リテハ四人ヲシテ就業衣  
食總テ絶ヘス此處ニ起臥セシムルコトナルカ故ニ其廣サモ亦之ニ應ジ凡ソ長  
三八メートル幅二二メートル高三メートルニシテ地積八三平方メートル空氣  
ノ容量ハ少クモ二十五立方メートルアルヲ要ス但シ短期囚凡ソ三箇ヲ拘禁スル  
所ノ分房ニ在リテハ空氣ノ容量凡ソ十六立方メートルアルヲ以テ十分トシ  
則チ二立方メートルハ短期囚ノ分房ハ地積モ亦之ニ準ジテ限縮スルヲ得ヘシ夜間分  
房ニ於ケル空氣ノ容量ハ十五立方メートル<sup>テ可ナリトハ設計アルニテ</sup>以テ足レ  
リトスヘク房戸ノ幅ハ六十センチメートル以下タルヘシ房壁ハ作業等ノ際ニ  
於テ衝突毀傷ノ虞ナカラシメ且ツ清潔ニ拂拭スルノ便ヲ得セシメンカ爲メニ  
其下部凡ソ高サ二メートル<sup>ニセメント煉石灰ヲ塗リ</sup>尙ホ灰色ノ漆油ヲ布  
抹スルヲ要ス<sup>毎年之ヲ塗分房ニハ成ルヘク簡單ナル信號裝置ヲ備ヘ</sup>四人ヲシ  
テ用ヲ受持看守ニ通スルノ便ヲ得セシムヘシ<sup>信號電機ヲ備フニシトテ</sup>又アル  
モ<sup>其宜シキ店等ノ裝置ニ努メシテ</sup>上窓ハ一平方メートルアルノ大サトシ高サ二  
メートルアルノ位置ニ之ヲ設ケ其下半部ハ密閉シ<sup>用フヘシ</sup>上半部ハ垂開シテ直

角ヲ〇スニ至リ之ヲ開閉スルハ鎖門ニ密著スル繩棒ヲ下ヨリ繰繰スルニ依テ  
シム<sup>其子ハ常ニ外部ノ方ニ附シ</sup>繩棒ハ百三十五センチメートル以下繩棒ハ五十  
センチメートル<sup>ヲ</sup>間隔ヲ置クヘシ監房ノ戸ハ内外何レニ向ヒテ開閉スルモ裝  
置ト爲スヘキヤニ付テハ議論未タ一定スル所アラスト雖モ先ツ外部ニ開タ  
九〇メートル幅〇七五メートルトシ戸ハ木材ヲ用ヒ相當ノ厚サヲ保チ内面ハ  
厚サ一センチメートル<sup>ノ</sup>鐵板ヲ張リ尙ホ視察孔<sup>房ノ内部ニテ製造スルニ便シ</sup>廣ク  
<sup>ハ回轉シ得ル圓板ヲ付シ</sup>尙ホ之ニ及ビ堅牢ナル錠前ト門トヲ附著スヘシ  
房内ノ空氣ハ頻頻窓ヲ開クコトニ依リテ能ク流通スルコトヲ得ヘシト雖モ尙  
ホ之ヲ完全ナラシメンカ爲メニ其前部ニ方形又ハZ字形ノ二孔ヲ穿ツコト必  
要ナリ即チ其一ハ房戸ノ上部他ハ便器置場ノ上部ニ當ル位置ニ之ヲ設ク便器  
ハ口ヨリ左方ニ當ル隅角ニ之ヲ排置ス便所ノ構造如何ハ久シク困難ナル疑  
問ノ一ニ屬シ或ハ据付便所ノ設備ヲ可トスルアリ或ハ疏通法ノ利便ヲ説ク  
アリシト雖モ現今ニ於テハ一般ニ清潔及ヒ經濟上ノ點ヨリ運搬ヲ得ヘキ便器

ヲ採用スルノ適當ナルヲ認ムルニ至レリ便器ハ磁器ヲ以テ之ヲ製シ三センチメートル乃至四センチメートルノ薄ヲ有シタル縁ヲ設ケ常ニ水ヲ以テ之ニ充クシ蓋ヲ此ニ締入レテ密閉スルカ故ニ毫モ臭氣ヲ飛散スルノ虞ナシ便器ノ置場ハセメントヲ以テ固メ且ツ地氈青ノ漆ヲ塗リタル石造ノ臺座ヲ以テ構造シ其上ニ鐵鑄磐石若クハ假漆ヲ塗リタル木材ヲ以テ造リタル磔座ヲ備ヘ臺座ノ上ニシテ磔座ノ下ニ當ル所ニ之ヲ設ク

### 第五節 拘留監

拘留監ハ裁判所ノ關係最も多ク被告人ノ之ニ往復スルモノ極メテ頻繁ナルコトナルカ故ニ其建設ノ位置ハ必ス裁判所ニ近接シタル地域ナルヲ要ス但シ其監房ノ窓ハ街路ヨリ眺觀スルヲ得ナラシムルノ構造ト爲シ且ツ私有地トノ間ニ相當ノ離隔ヲ設ケ拘禁者ト監外人トノ交通ヲ防クノ注意アルコト必要ナリ拘禁監ハ其全體ヲ分房ノ構造ト爲スノ必要ナルハ論ヲ俟タサレトモ幾分か又總居房ヲ備ヘ以テ分房ニ適セス又ハ一時多數ノ入監者アル場合ニ其幾分ヲ維

居セシムルノ用ニ供スヘシ翼舎及ヒ監房ノ構造ハ上來陳述スル所ニ依リテ之ヲ斟酌スヘシト雖モ要スルニ男女ノ翼舎ハ峻嚴ニ之ヲ劃別スヘク或ハ層ヲ分ナ或ハ房ヲ接シテ一翼舎ノ内ニ男女ヲ拘禁スルカ如キコトアルヘカラス

### 第六節 留置場

留置場ノ大ナハ其既往數年間ノ最多人員ト將來増殖ノ豫想アル人口數ヲ準トシテ之ヲ量定シ警察官署ニ密接シタル位置ニ於テ外間ト相當ノ距離及ヒ其交通ヲ遮斷スルヲ得ルノ方法ニ構造スヘシ若シ男女ヲ各別ノ建物ニ離隔拘禁スルコト能ハスハ一棟内反對ノ部分ニ於テ其出入口ヲ設ケテ全然相接觸スルヲ得ナラシムルコト必要ナリ留置場ニ於ケル拘禁ハ通例短日數ニ過キサルニ由リ其分房ハ容積十一乃至十二立方メートルヲ以テ充分トスヘシ分房ノ外向ホ多少ノ雜居房ヲ設備スヘク其他若シ出來ヘケンハ尙ホ十六乃至二十五立方メートルノ容積アル二三ノ分房ヲ設ケ稍々長期ノ囚人ヲ拘禁スルニ充ルヲ得ハ最も可ナリ經理用ノ建物ハ成ルヘク最も必要ナルモノニ限リ其他ハ總テ

之ヲ省略スルヲ要ス。食料ハ若シ近傍ノ飲食店ニ受負ハシムルコトト爲サハ炊所ノ如キハ即チ之ヲ建設ヲ省クヲ得ヘシ。

### 第七節 懲治場

懲治場即チ不論罪ニ係ル幼年ノ犯罪者ニ對シテ強制教育ヲ執行スルカ爲メニ設クル所ノ監舍ハ其探ル所ノ主義即チ家族制學校制若クハ混同制等ニ由リテ其構造ヲ異ニセサルヘカラスト雖モ要スルニ如何ナル場合ニ論ナク決シテ普通ノ監獄ト聯接シテ之ヲ建造スルカ如キコトアルヘカラスト蓋シ懲治ノ事ハ行刑トハ全然其趣ヲ異ニシ又異ニセサルヘカラスト以テナリ懲治場ニ於テモ男女ハ全ク其拘禁ノ場所ヲ異ニスルヲ要ス而シテ其規模男ハ二百人乃至二百五十人女ハ二十五人ヲ限度トシテ設計スヘク構造ハ概シテ監獄ノ如ク之ヲ嚴重ナラシムルヲ要セシ懲治場ニモ亦相當ノ居室寢室工場教室講堂事務所經理用建物等ヲ設ケ官宅モ亦附設シテ之ニ附屬シ其他懲治者一人ニ付凡ソ五アール乃至六アールニ該當スル所ノ耕地ヲ備ヘ農業ノ用ニ充ルコト最モ必要ナリ。

ヲ最良ニ懲治人ニ教ラセムコトノ最モ其政良感化 懲治場ノ構造及ヒ組織ハ殊ニ最モ質素簡樸ヲ旨トシ兒童ヲシテ他日出場ノ後復歸スヘキ自家ノ生活ニ出シテ比較的毫モ善良ナルモノニアラストノ感想ヲ起サシムルコト必要ナリ。

### 第八節 結 論

監獄構造ノ完成ヲ慮ラスニテ適正ナル行刑拘禁ノ目的ヲ貫徹センコトヲ期スルハ木ニ倚テ魚ヲ求ムルヨリモ尙ホ困難ナリト謂ハサルヲ得ス世間或ハ之ヲ悟ラス卒然治獄ノ外觀ヲ觀察シ成ハ犯罪増加ノ事實ヲ認識シ漫ニ其罪ヲ刑及ヒ行刑ノ方法組織ノ不完全ナルニ歸シ甚シキハ即チ中古時代ノ野蠻慘酷ナル體刑若クハ追放ノ刑ヲ復興シテ自由刑ヲ廢シ若クハ之ヲ適用ヲ制限スヘシト主張スル者アルニ至ル想ハサルノ甚シキモノト謂フヘキナリ往時ノ監獄ハ唯長嘯の拘禁ヲ目的トシタルモノニシテ行刑感化ヲ以テ目的トスル近代ノ監獄トハ其目的ニ於テ既ニ雲泥ノ相異アリ之ヲ覺フレハ彼ハ圓形物ヲ入ルルヲ目的トシ此ハ即チ流動物ヲ容ルルヲ以テ目的トス彼レ固形物ヲ入ルルニ適ス

ルモノヲ以テ流動物ヲ容ルル所ノモノニ充テント欲ス其用ヲ成ス能ハサルハ  
 論ナキナリ歐米諸國ニ於テハ夙ニ此ニ見ル所アリ獄制改良論ノ起ルト同時ニ  
 監獄構造ノ方法ニ就テモ亦深ク研究スル所アリ之カ爲メニハ管ニ幾多ノ思考  
 カヲ費シタルノミナラス併セテ又驚クヘキ巨額ノ經費ヲ擲テ以テ之カ犠牲  
 ニ供シ吾人ヲシテ實ニ彼ノ良制ハ高價ヲ以テ購ハサルヘカラサル所以ヲ事實  
 ノ上ニ認識セシムルニ至レリ然ルニ諸ツテ一方ヨリ之ヲ見レハ斯ク多額ノ費  
 用ヲ支出セタルコト反テ亦世人ヲシテ獄制改良ニ絶望少クモ踴躍進取スルニ  
 至ジシメタルノ影響ナキニ非ス是ヲ以テ近來成ルヘク其經費殊ニ建築費ノ節  
 減ヲ求メ世人ヲシテ良制モ亦割合ニ低廉ノ價額ヲ以テ購ヒ得ラルヘシトノ確  
 信ヲ起サシムヘシトノ論盛ニ起リ其結果トシテ即チ上來繰述スルカ如キ所ノ  
 構造法ヲ案出シ尙ホ之ニ依リテ著著其實效ヲ事實ノ上ニ表顯セシムルニ至リ  
 且ツ其一手段トシテ監獄ハ成ルヘク罪囚ノ技能勞力ヲ利用シテ之ヲ構造スハ  
 シトノ原則ヲ立テ英國獨逸瑞典伊太利等到ル處此原則ニ依リテ顯著ナル  
 ノ一節約ヲ見ルニ二分經費節減ノ實例ヲ吾人ニ示スモノアルニ及ヘリ今左ニ讀者

ノ參考ニ供スルカ爲メ今日ニ至ル迄如何ニ多ク又幾何相當ノ建築費ヲ支出セ  
 シヤヲ表示シテ以テ本論ノ局ヲ結ス

監 名	建築年紀	豫定拘禁員	建築費	備考
東京 集治 監	十一年度乃至二十一年度	一、一〇〇	一〇八、〇六五	九七二 雜居制
管視廳監獄	二十一年度乃至二十六年度	二、〇〇〇	八九七、九一六	四四九 雜居制
石川島 支署	二十一年度乃至二十六年度	三、〇六八	四三五、六九四	一四二 雜居制
大阪府 監獄署	二十四年度乃至二十六年度	一、九二二	一七四、五五三	九一 雜居制
兵庫縣 監獄署	二十四年度乃至二十六年度	一、一八九	七、四六三	六〇 雜居制
静岡縣 監獄署	二十四年度乃至二十六年度	一、一七〇	一〇、六二九	九五 雜居制
長野縣 監獄署	二十三年度乃至二十四年度	九〇八	五七、一三三	六三 雜居制
鳥取縣 監獄署	二十四年度乃至二十五年	一、〇〇〇	九二六、〇〇〇	九一六 折衷制
ミルバンク (英國)	千八百二十三年	三六	八六四、〇〇〇	二四〇〇 階級制
ヨーク (英國)	千八百二十五年	三六	八六四、〇〇〇	二四〇〇 階級制



ロケット	(佛) 國	千八百二十九年	三四〇〇	二〇〇九〇・三〇	五〇・二三	折返制即チ「モルバ」
ダンフ	(瑞) 西	千八百二十二年	五〇	二一〇〇〇〇	四二〇・階	折返制即チ「モルバ」
ローサンヌ	(瑞) 西	千八百二十一年	一〇四	四二七四五六	四〇・七・階	折返制即チ「モルバ」
ターバルン	(紐) 西	千八百二十六年	七〇	九二四〇〇	二七三二	夜間分房制
シンダシグ	(紐) 育	千八百二十五年	一〇〇〇	八五〇〇〇〇	八五〇	夜間分房制
スタニスラウ	(奧) 國	千八百七十八年	八〇〇	一七一八〇〇〇	二一四七	夜間分房制
ヒラデルヒヤ	(米) 國	千八百三十二年	五八六	三三八三五五〇	五六〇四分	夜間分房制
フノンベル	(佛) 國	千八百四十一年	一三〇〇	二八八六五〇四	二二二〇分	夜間分房制
ベントンビル	(英) 國	千八百四十二年	五二〇	一八〇〇〇〇〇	三、四六二	夜間分房制
モアビート	(獨) 逸	千八百四十六年	五〇〇	一八六〇八四五	三七二一分	夜間分房制
レーウエン	(白耳) 義	千八百六十九年	六三六	一五一四三三二	二三八一分	夜間分房制
クリスチャニス	(諸) 威		二五二	九一三〇〇〇	三六三三分	夜間分房制

## 第十章 監獄管理法

## 第一節 監獄ノ定義及其種類

監獄トハ法律ニ依リ國權ヲ以テ臣民自由ノ行動ヲ拘束スルカ爲メニ指定シタル所ノ公ノ建物ヲ指シテ之ヲ稱ス而シテ其自由ノ行動ヲ拘束スル所以ノモノ一或ハ治罪審判ノ爲メニ或ハ處罰ヲ實行スルカ爲メニ或ハ債務履行ノ確保ヲ期スルカ爲メニ或ハ保安及ヒ教育上懲治檢束ノ目的ヲ達スルカ爲メニ之ヲ行

フライブルヒ	(獨) 逸	千八百七十五年	四六六	一八九〇〇〇	四〇五六	折	裏	制
ナムーウル	(白耳) 義	千八百七十六年	一四一	六五七二七八	四、六六一分	房	裏	制
ラビトール	(獨) 逸	千八百四十五年	五二四	一八〇〇〇〇〇	三、四三三折	裏	裏	制
レンズブルヒ	(獨) 逸	千八百七十年	四五〇	二九〇八一五〇	六四六三折	裏	裏	制
ブレワチエン	(獨) 逸	千八百七十五年	一三九〇	六二八七〇〇〇	四、五二三折	裏	裏	制
ナンタル	(佛) 國	千八百七十八年	一八〇〇	二二〇〇〇〇〇	六、六六七折	裏	裏	制



ヲモノナリトス 刑罰ノ執行ニ關シテ、  
治罪審判ノ爲メニスルモノ之ヲ未決監ト稱シ處罰ヲ實行スルカ爲メニスルモノ之ヲ已決監ト稱シ債務履行ノ確保ヲ期スルカ爲メニスルモノ之ヲ民事監ト稱シ懲治檢束ノ目的ヲ達スルカ爲メニスルモノ之ヲ懲治監ト稱ス監獄則第一條ニ曰ク

監獄ヲ別テ左ノ六種トス

一 集治監 徒刑流刑及ヒ舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス  
二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及ヒ婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及ヒ拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

明治三十三年九月廿六日印刷  
明治三十三年九月三十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地  
發行所 小田 幹 治 郎

東京市芝區四ノ久保町舟十一番地  
印刷者 金 子 鐵 五 郎

東京市芝區四ノ久保町舟十一番地  
印刷所 金 子 活 版 所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)



明治二十二年十二月九日內務省許可